令和7年2月犬山市議会定例議会会議録

第3号 3月4日(火曜日)

◎議事日程 第3号 令和7年3月4日午前10時開議

- 第1 諸般の報告
- 第2 一般質問

◎本日の会議に付した案件

- 日程第1 諸般の報告
- 日程第2 一般質問

◎出席議員(18名)

1番	丸山幸治君	10番	玉置幸哉君
2番	ビアンキ恵子君	11番	岡 覚君
3番	増田修治君	12番	岡村千里君
4番	光清毅君	13番	鈴木伸太郎君
5番	小川隆広君	14番	沼靖子君
6番	島田亜紀君	15番	久世高裕君
7番	諏訪毅君	16番	柴山一生君
8番	小川清美君	17番	柴田浩行君
9番	畑竜介君	18番	大沢秀教君

◎欠席議員(なし)

◎職務のため出席した事務局職員の職・氏名

議会事務局長	長谷川 敦君	議事課長	大鹿 真君
主査補	高橋 万祐子君		

◎説明のため出席した者の職・氏名

市長	原 欣伸君	副市長	永井 恵三君
教育長	滝 誠君	経営部長	井出 修平君
市民部長兼防災監	武内 雅洋君	健康福祉部長	高木 衛君
子ども・子育て監	小幡 千尋君	都市整備部長	森川 圭二君
都市整備部次長	丸井 良修君	経済環境部長	新原 達也君
教育部長	中村 達司君	消防長	大澤 満君
企画広報課長	古田 隆行君	経営改善課長	兼松 光春君

総務課長	舟橋正人君	防災交通課長	伊藤修君
税務課長	百武俊一君	健康推進課長	水野嘉彦君
子育て支援課長	青山貴一君	子育て支援課主幹	中村美和君
子ども未来課長	上原真由美君	子ども未来課主幹	伊藤真弓君
子ども未来課主幹	神林宏之君	都市計画課長	高木誠太君
都市計画課主幹	一柳佳誉君	整備課長	高橋秀成君
土木管理課長	吉田昌義君	環境課長	高橋正直君
観光課長	小池信和君	文化推進課長	大黒澄子君
歴史まちづくり課長	加藤憲夫君		

午前10時00分 開議

◎議長（柴田浩行君） ただいまの出席議員は、18名であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

議事日程に従いまして、会議を進めます。

日程第1 諸般の報告

◎議長（柴田浩行君） この際、諸般の報告をいたします。

市長から地方自治法第180条第1項の規定に基づき、専決処分した旨の報告が1件ありますので、これを各位へ配付いたしました。

以上で、諸般の報告を終わります。

日程第2 一般質問

◎議長（柴田浩行君） 日程第2、一般質問を行います。

通告順に発言を許可します。

5番 小川隆広議員。

◎5番（小川隆広君） おはようございます。5番、日本共産党犬山市議団、小川隆広です。

通告に従いまして4件の質問をさせていただきます。

件名1、防災ラジオについてであります。

この質問をいたしますのは、要旨のとおりご意見をいただいたからであります。流れをお話いたしますと、先日、私どもが参加をしますコミュニティバスの充実を求める会で、今井ふれあいセンターにおいて、住民との意見交換会を開催いたしました。その中で、要旨のとおり、防災ラジオの定期的な試験放送はできないかというご意見を頂戴いたしました。感度は大丈夫なのか。居間に設置して電源は入っているが、いざというときに、本当に音声が届くのか心配だ、そういったご意見がありました。

感度のほうについては、愛知北エフエムの放送を聞いていただくという方法もあるんですが、いざというときに、本当に緊急の音声に切り替わって流れるのか、そういった部分については、なるほど定期的な試験放送が必要であるというふうに感じました。

前職では仕事柄、毎朝無線のテストから始まっていました。通常のFM放送に割り込む形

になりますので、難しい部分もあるかと思いますが、人命に関わる部分でもあり、大変重要なご意見だと思います。防災ラジオの定期的な試験放送はできないものか、お尋ねをいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） おはようございます。それでは、ご質問にお答えします。

令和6年12月1日より運用開始した災害時の緊急放送について、令和7年度より試験放送を実施します。現在、愛知北エフエム放送株式会社と調整を進めています。試験放送は毎月1回、曜日と時間を決めて行います。

詳細については改めて周知をするとともに、試験放送時には防災ラジオが自動起動するため、ラジオ購入者には郵送にて通知をします。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございました。

既に次年度から実施する方向で進めていただいているということで、スピード感を持った対応に感謝いたします。ご意見をいただいた方々にもご報告のほうをしたいと思います。安心していただけたと思います。

次の質問に移りたいと思います。

件名2、富岡前駅の駐輪場改修についてであります。

この質問をいたしますのは、富岡前駅で朝から活動しておりますと、通学班の見送りなどを行っているのですが、駅の利用者、あと近隣にお住まいの方などから、駅前の環境について様々なご意見をいただきます。

とりわけ駐輪場については、塔野地のほうから自転車で駅までお見えになる方々が多いこと、あと犬の散歩や隣接する集積所へごみ出しに近隣の住民の方が来られることから、多くのご意見をいただいております。

やはり駅駐輪場の改修は大事だなと思っております。特に駅と駐輪場の位置関係で、例えば南側の駐輪場は、駅に近いほうへ利用者が集中をしているということから、電車の発車間際に自転車でお見えになった方が、少しの隙間に駐輪をして、車道のほうへはみ出してしまおう、そういったことも起きております。

要因の一つに、もともとあった白線が消えている、そういったことも原因の一つではないかと思われまます。またそういったご意見もいただいております。

新可児方面に向かわれる方については、北側の駐輪場をご利用される方もお見えになるのですが、駅の改札からは少し離れているのと、また人目に付きにくい、何より出入口が舗装されていない砂利敷きで、雨の日に駐輪した方の足元が汚れてしまうということもあって、南側と比べて利用者が大変少ないように感じております。

私にもこだわりがありまして、犬山市地域公共交通計画に記載されていた令和4年の富岡前駅の利用者数が29万2,852人ということで、市内7駅では一番少ない利用者数であります。この数字を何としても上げていきたい、利用者を増やしていきたいという思いがあります。

理想とする駐輪場の姿となると、大変大きな話になってしまいますので、まずは今お話ししましたようなご意見をいただいている中で、北側の砂利敷き部分のアスファルトの舗装ができないのか、また南側の消えている白線を引き直すことができないのか、お尋ねしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

富岡前駅の駐輪場は、北側、南側ともに名鉄からの借地で舗装しています。議員ご指摘の北側駐輪場の通路部分となる砂利敷きとなっている土地は、名鉄の所有地となっています。

市として整備することは、舗装に係る費用に加えて、新たな借地料や修繕費など、将来にわたる維持管理費や緊急性などから難しいと考えています。

一方で、駐輪場の環境整備は、鉄道利用者の利便性向上につながることから、所有者である名鉄に要望をしていきます。

次に、駅の南側にある駐輪場については、道路へのはみ出しを防ぐための対策として、駐輪を誘導するための白線を引き直すことについては、ほかの駐輪場の修繕状況を踏まえながら、令和7年度以降に検討していきます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございました。今日のところは駅南側の道路へのはみ出しの対策ということで検討をいただけるということで、理解いたしました。

話は変わりますが、私も最近、電動アシスト自転車を購入して活用しております。大変いいものだなというふうに思っております。

以前もレンタルサイクルを使っていたのですが、体重が体重だけにタイヤへの負担も大変大きいものですから、ご迷惑をかける前にレンタルサイクルの使用は控えました。この体重に耐えられるタイヤを装備した電動アシスト自転車が見つかったものですから、購入をいたしました。

そうしますと、駅に置いておくとときに、どうしても盗難の心配があります。最近は何物の高騰も相まって、電動自転車もアシスト自転車も大変高価なものになってきたと感じております。安心して預けられないものかと思ったときに、犬山駅西口にある有料駐輪場は、大変いいものだなと個人的に思いました。交通系ICカードを使うと、1日100円、それでタイヤをがっちりロックしてくれるので、少なくとも、自転車本体の盗難は防ぐことができるというふうに思いました。

当然、無料駐輪場というのはあってしかるべき、なくてはならないのですが、利用者の立場になると、そういった選択肢があることも重要ではないかなというふうに感じております。

地域の皆様の考え方もありますので、あまり勝手なことは言えませんが、今後そういったことも研究しながら、またの機会に質問をさせていただきたいというふうに思います。

次の質問に移ります。

件名3、住民税均等割のみ課税される世帯についてであります。

この件を質問しますのも、前の2件と同様に寄せられたご意見からです。善師野地区にお住まいの方でした。年間の収入が100万円を少し超えたぐらいで、住民税の均等割、これを4,500円お支払いになっておりました。

その方が、私はこの4,500円を払っているために、75歳からの高齢者のタクシー料金助成の対象にならないということと、補聴器の補助の対象にもならない、この差は大きいのではないかというふうにおっしゃっておみえでした。

また、ある方は、封書にて住民税非課税世帯給付金についてぎりぎりのラインで受けることができなかった旨の内容について、大変不公平感を感じている。同じような人がどれくらいいるのか調べてほしいということで、この方は別の要件も若干あったようですが、ご意見を寄せられました。

要旨を分けて質問したいと思います。

まずは、要旨1であります。住民税非課税世帯と、住民税均等割のみが課税された世帯の数について、お伺いをしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

犬山市の全世帯数は、令和7年1月31日現在で、3万2,008世帯になります。住民税非課税世帯は6,151世帯で、全世帯の約19%、住民税均等割のみ課税される世帯は2,608世帯で、全世帯の8%です。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございました。

犬山市全世帯のうち、住民税非課税世帯が約19%、住民税均等割のみ課税されている世帯の数が2,608世帯で全体の8%ということで数字を示していただきました。

では、次の要旨に移ります。

要旨2点目です。犬山市のホームページで住民税非課税、助成事業、これをキーワードに検索をいたしますと、先ほど申し上げた、犬山市高齢者タクシー料金助成事業、犬山市難聴高齢者補聴器購入費助成事業、これのほか、犬山市住宅高齢者住宅リフォーム費助成事業、あと女性の方が対象になるのですが、大人の風疹ワクチン予防接種助成事業ということで次々と出てきます。

この市が行う住民税非課税世帯への助成事業がどれくらいの数があり、どのような内容のものなのか、簡単で結構ですのでお教えいただきたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

制度の主体は、国・県・市など様々ですが、40事業あり、助成制度としては、給付または減免が行われています。

その内容につきましては、健康福祉部の所管するものが多く、福祉・医療・健康といった分野に関するものが多数を占めています。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございます。

国や県のものも合わせてになるかと思いますが、40事業あり、福祉や医療、健康といった分野で給付や減免が行われているということで理解いたしました。

ここで再質問をさせていただきます。

今の答弁で、住民税非課税世帯が対象の助成事業の数は40事業あると分かりました。この中には大人の風疹ワクチン予防接種助成事業のように、対象者が住民税非課税世帯、生活保護の方といった範囲のものがあります。

私自身が犬山市のホームページから見つけることができなかったのですが、例えば住民税非課税世帯が対象の助成事業で、住民税均等割のみが課税された方も対象に含まれる助成事業があれば、お伺いしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） 再質問にお答えします。

住民税均等割のみが課税される世帯に対するものについては、令和5年度に繰越しをし、令和6年度に実施をしました、1世帯当たり10万円給付した事業の給付金以外は該当するものはございません。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございます。

臨時の給付事業1件、これ以外はないということで、そうなってきましたと、問題意識を持つてしまうのが、同じような年齢層で同じような境遇に置かれた方だと、住民税非課税とぎりぎりのラインで住民税均等割、こちらが課税された場合とで、大きく逆転現象が起きるのではないのかなというふうに思ってしまうわけです。

再々質問をさせていただきます。

私としては、収入が少なく苦しい中で、住民税をお支払いいただいた方が助成事業を受けられないということに対して違和感を覚えております。

徴収の際には累進性を持って、収入に応じて納めていただくわけです。そうであれば、助成事業にも一定の階段を設けて対応すべきと考えます。今日のところは住民税均等割のみが課税された世帯、例えるなら応能に当たる部分を払うほどの収入にはなっていない。生活で苦しい思いをされている方々へ助成事業を拡大していく考えはないのか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） 再質問にお答えします。

非課税世帯には、国や市の様々な制度で補助や減免の措置が設けられているのは、先ほどの答弁のとおりです。これまで国や県も、制度や区分を設ける際には、非課税世帯を対象に制度設計するのがスタンダードとなっており、市においても同様です。

このような状況の中、議員のご提案のとおり、補助や減免の対象を均等割のみ課税世帯まで拡充するといった線引きをする場合、結局また次の階層の境目で不公平が生じることは避けられません。

いずれにしましても、対象を線引きする基準には、公正性や納得感が不可欠だと思いますので、現時点においては現状のまままでと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございます。

現時点での考え方ということですが、今日のところは1点、指摘をさせていただきたいと思います。

今議会でも様々な議案が準備をされております。中には、市民の税負担率が上がっていくような内容もあります。犬山市だけで解決できない、そういった問題もありますが、物価の高騰、税負担率の上昇で生活が苦しくなっていく中で、これまでのスタンダードで右に倣えていいのか、しっかり考えていかなければいけないと私は思っております。

おっしゃられるように、日本国内では現状、これがスタンダードですので、インターネットで検索しても、住民税均等割のみが課税された世帯、こういったところへの助成事業というのは、やはりヒットはしません。

ですが、犬山市独自で解決できる部分については解決していく必要があると思います。例えば、犬山市高齢者タクシー料金助成事業であれば、住民税均等割のみが課税された世帯は、例えば半分の14枚を支給しますよということであるとか、犬山市難聴高齢者補聴器購入費助成事業であれば、助成額の2分の1までは助成しますよといったような対応を設けていくべきではないかというふうに思います。

さっきも申し上げましたが、収入が少ない中で、住民税をお支払いいただいていると思います。次の階層の境目ということでお話をされましたが、それこそ累進性に合わせて階段を設ける必要があると思います。

煩雑な作業になるということであれば、今後のDXで解決をしていただきたい、そのことをご指摘をさせていただいて、次の質問に移りたいと思います。

件名4、施政方針についてです。

今議会で令和7年度の施政方針が示されました。私からは要旨を2つに分けて質問をさせていただきます。

まず、要旨1、新設をされる「なんでも対応課」についてであります。

犬山市では、各種相談窓口を設けておりますが、なかなか市民の皆様は、それぞれの窓口へ行ってもらうのは、行政の知識も必要になるので、難しい部分があるのと、複数の課にまたがるようなご相談もあることから、市の業務全般ということで、市民相談の窓口を設けて、当日先着順に対応していただいておりますというふうに記憶をしています。

昨今では、重層的支援体制整備ということも言われており、市民の皆様にもっと分かりや

すく、相談しやすい環境を整えていかなければならないわけですが、この新設をされるという言葉が適切かどうかは分かりませんが、なんでも対応担当について、これまでの市民相談の窓口と何が異なるのか、何が評価をされるのかをお示しいただきたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

現在、市民相談は、市民の方から様々な相談を、本庁舎1階の市民相談室、または電話で開庁日に会計年度任用職員2名の相談員を配置して、企画広報課の広報広聴業務として実施しています。

相談内容は、市役所業務に関係する事柄から、国や県など直接市役所業務でない事柄のほか、家庭や人間関係、金銭トラブルなどのような個人的な悩みに至るまで多岐にわたります。市役所に関係する内容であれば、相談員が担当課に事情を説明した上で、一緒にご案内し、市役所以外であっても、適切と思われる専門の相談窓口や機関をご紹介します。

また、相談員がお話をお聞きすることで、安心、納得してお帰りになる方、定期的にお話にいらっしゃる方もいます。

このように、その事柄や内容により、相談への対応が異なりますので、現在でも相談者の困り事の解決につながるよう、また、相談者の気持ちのよりどころとなるよう、相談員は知識と経験を生かし、相手に応じた接遇態度にも注意を払いながら、弾力的かつ柔軟な対応を行っています。

しかしながら、時代や環境の変化とともに、今後ますます多様化が予想される問合せや相談に、より丁寧に対応する体制を整える必要があり、正規職員を1名、担当職員として追加配置した上で、なんでも対応担当として新たな担当を設置します。

したがって、4月以降もこれまでどおり市民の皆様の相談窓口として役割も業務も変わりませんが、なんでも対応担当で受け付けた相談内容については、可能な限り、どのような結果になったのか、その経過も含め、案件ごとに把握、確認していく予定です。そうすることで、顛末が明らかになり、途切れない対応がより可能となりますので、市役所が少しでも市民の皆様の安心につながる場所になるものと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございました。

再質問をさせていただきます。

役割や業務といった基本的なところは変わらないということで、経過を含め、案件ごとに把握、確認することで、途切れない対応を可能にしていくということで理解しました。

今の答弁のような形になるわけですが、市民の皆様は、相談の先の解決、これを求めている部分が大変強いというふうに感じております。

施政方針では、会計年度任用職員2名に、行政知識豊富な正規職員を加えた体制ということでしたが、人員配置にも限りがあります。何でもということで、従来よりも相談件数が例えば増えて、3名体制で大丈夫かという点もありますし、当該担当が増員になると、他の課

において、職員の負担が発生してしまうといったことを心配するところですが、合わせてお伺いをしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） 再質問にお答えします。

市民相談の件数は、令和3年度から令和5年度にかけて、毎年度、おおむね300件から340件程度で推移しています。

今回、広報広聴担当で行っていた市民相談業務を一つの担当として、さらに「市民相談室なんでも対応担当」との名称で市民に親しみやすく変更したことによって、行政に関係ない事柄であっても全ての困り事を解決するというように理解される場合もあるかもしれませんが、そうした理由から、例年よりも相談件数が増加することも予想されます。

その点につきましては、担当を設置する際の課題の一つであると認識しており、まずは市民の皆さんにも、庁内にも相談をまずはお聞きする、市民に寄り添う、適切な部署や機関に適切につなぐことも含めて、なんでも対応担当という役割の理解が正しく図れるよう、周知を行ってまいりますし、具体的な相談内容については、これまでどおり内容に応じて、関係各課や関係機関などへの橋渡しや連携を持って対応に当たっていきます。

その上で、相談業務に当たる職員数は、当初は月15日勤務のパートタイム会計年度任用職員2名と正規職員1名の計3名からスタートすることを予定していますが、業務を実施していく中で、適正な配置職員数を検討してまいります。

なお、なんでも対応担当を設置することにより、他課の職員を減員する予定はありません。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） ご答弁ありがとうございました。

今の答弁の中で、業務を遂行していく中で、適正な配置職員数を検討していくということでしたので、適宜確認しながら適正な配置をして、職員の過度の負担とならないようにしながら、可能な限り対応した案件の解決を目指していただきたいというふうに思います。

最後になります。要旨2点目、今年の施政方針の冒頭に出てきました今年のキーワード、「ちょうどいい」についてであります。

私、個人的に、この「ちょうどいい」というキーワードが大変気に入っておりまして、私自身も18歳から約27年間、犬山に住んで名古屋に勤めていました。実家というのもあるのですが、住環境が確かに「ちょうどいい」というふうに今でも思っております。職場まで1時間程度で行くことができ、職場の近くと比べると閑静で住みやすい、そういうふうに思いました。

昨年度の施政方針では、人を大切にすること、地域を大切にすることが冒頭に示され、「持続可能なまちづくりのため、皆さんと一緒に犬山を見つめて、犬山を動かしていきたいです。」とありました。これについても、持続可能なまちづくりというのは重要なものだと思います。

さて、質問ですが、今年のキーワード「ちょうどいい」ですが、環境に恵まれた中で、企

業誘致や新しい犬山づくりにチャレンジできるとも示していただきました。私は勝手ながら、ここに市長の思いが詰まっていると感じました。成長する可能性と潜在力が多くあるし、さらに求心力があるまちづくりができるとの思いもお示しいただいております。何をするにも「ちょうどいい」が満載の犬山市が、今後、どのような成長を目指していくことを考えておみえなのか。今議会、最初の一般質問です。市長の理想、夢のあるお話をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

原市長。

〔市長 原君登壇〕

◎市長（原 欣伸君） 小川隆広議員のご質問にお答えをさせていただきます。

犬山市は道路や鉄道の交通アクセス、災害に対する安全性、岐阜にも名古屋にも近い立地、自然と市街地と住宅地があって、まち過ぎず田舎過ぎない、地理的なバランスなど、まちが持つ多くの資源が、人の暮らしや経済の活動に「ちょうどいい」と感じています。こんないいまちはないとの思いで、「ちょうどいい」まち犬山を掲げています。

これだけ「ちょうどいい」がいっぱいあるのだから、犬山市の将来の成長はあらゆる可能性があるし、まだまだ手つかずの潜在力もたくさんあるんだと思っています。だから、年明け初めての幹部連絡会では、部課長に施政方針でもお示ししたとおり、犬山市を売っていこう、犬山市がもうけていくことを考えていこう、みんなで犬山の推し活をやっていこうと思いと考えを伝えたところであります。

だから、これまで以上に人と地域を大切にすることにこだわっていきながら、成長するまちは強いまちでもないし、賢いまちでもない。その時代の変化に対応できたまちが成長するとの考えで、新たにチャレンジする気持ちと姿勢をさらに高めていきたいと考えています。

そのため、私はトップセールスを強く意識していきます。昨年11月には東京で開催された愛知県が開催する産業立地セミナーに参加して、犬山を売り込んできました。今年に入り、ある通信IT企業がAIデータセンターを建設する場所を探していると情報が入り、トップに会い、犬山市の考えをお示しました。

あるプロのスポーツチームにも接触をしています。丹波篠山市と一緒に、犬山市名誉市民の河合雅雄さんをモチーフにしたNHKの朝ドラの誘致に動き出したことや、来年のNHK大河ドラマの「豊臣兄弟」を見据えて、今月にはNHK名古屋放送局の局長さんにアポを取っています。

犬山の地域医療の足らず前を少しでも解消できるように、犬山の医療関係者に私と犬山の考えを申し入れました。政府が地方創生2.0に向けて取組が進むことから、待ちではなく、犬山市から仕掛け、動き出しています。それぞれ詳細は申し上げられませんが、「動かなければ変わらない」の考えで、トップセールスによって、犬山市の可能性と潜在力を引き出して、求心力のある犬山づくりを創出していきます。たとえ結果が伴わなくても、これらの動きが次につながっていくんだと思っています。

ただ、申し上げたとおり、トップセールスや当初予算案でお示ししている、これらの新しい犬山づくりのチャレンジは、他の自治体と競い合うためじゃありません。犬山市も直面し

ている人口減少に、ただ歯止めをかけるということを目的にしているものでもありません。

今後、犬山市の人口が減少していくことは明らかであります。だからこそ、人口を増やすため、何に取り組むかではなく、今、犬山市に住んでいる市民皆さんにとって魅力あるまちづくりを進め、それを伝え、感じてもらうことで、市民皆さんや事業所皆さんに、犬山市は暮らしに「ちょうどいい」と感じていただくことが大切だと考えています。

また、プロモーション活動を充実させ、まちの情報を発信していくことで、犬山市に関心を持つ人は自然と増えていくものであります。

その次には、そうした犬山市に関心を寄せてくれた人の中から、犬山市で何か活動したい、犬山に住んでみたいという人が現れてくると考えています。まずは市民ファーストの犬山づくりです。そこからいつも申し上げている「近きもの喜びで、遠きもの来る」につながっていくのだと思っています。

そのためにも、今まさに多くの「ちょうどいい」を生かしながら、職員みんなで犬山の推し活をしていく、そこから様々な新しい犬山づくりに挑戦していきます。それが目指していく犬山の成長の姿であります。よろしくお願ひ申し上げます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎5番（小川隆広君） 市長、ご答弁ありがとうございました。今議会の一般質問のスタートということで、今のトップセールスや様々な厳しい事実を認めながらも、前へ進んでいく、大変熱意のこもったお話をしていただきました。

引き続きの議案質疑では慎重審議して、それぞれの議案に賛否の態度をしっかりと示してまいりたいと思いますが、やはりこの犬山市をよくしていきたいという方向性は同じだと思っております。

大変いいお話をいただきました。ありがとうございました。これで5番、小川隆広の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（柴田浩行君） 5番 小川隆広議員の質問は終わりました。

議事の進行上、午前10時45分まで休憩いたします。

午前10時37分 休憩

再 開

午前10時45分 開議

◎議長（柴田浩行君） 休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

議員各位に申し上げます。9番 畑 竜介議員から、一般質問に関連する資料を配付する旨、申出がありましたので、これを許可いたしました。

9番 畑 竜介議員。

◎9番（畑 竜介君） 9番、創犬会、畑 竜介でございます。議長のお許しを得ましたので、事前に通告しました一般質問4件について順次進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

まず、1件目です。件名1、万願寺交差点西の変則四差路についてお伺いたします。

五郎丸の万願寺交差点から村田機械のほうへ行く道と、犬山口へ向かう道が交差している変則四差路があります。皆さんご存じのとおり、朝と夕は大変多くの車で混雑する場所です。そして、道に傾斜があったり、深く曲がっていたりと、往来する車が大変見にくい四差路でもあります。ここについては、中村県議が市議会議員の頃から課題と捉えて、いろんな提案をしてくださっています。当の私も大山南小学校のPTAの役員をやっている頃には、この四差路について、通学路の安全点検での危険箇所として、市に要望活動をしてまいりました。

しかしながら、残念なことに、今年1月にこの四差路において交通死亡事故が起きてしまいました。ご遺族の方には心よりお悔やみ申し上げます。

今回、残念な事故が起きてしまいましたが、地域住民をはじめ、我々も危険箇所と認識をしてはきていましたので、様々な対策を市のほうで取っていただけてきたと思います。まずはこの四差路について、現在までどのような対策が行われてきたのか、確認の意味も含めてお伺いたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

ご質問のありました変則四差路における安全対策については、10年ほど前に北から東の動線が主道路であることを運転者に分かりやすくするため、カーブ区間に赤色のカラー塗装を、また交差点の北側と西側道路にある横断歩道の手前にも、運転者の注意喚起を促す赤色のカラー塗装を実施しています。

平成30年度には、交差点付近の舗装のへこみや、複数の亀裂が発生していたことから、舗装の打ち替えを行い、その際に、カラー塗装の一部塗り替えを実施しています。

令和元年度には、西側道路から交差点に向かって坂を上ってくる車両が、左折する際に鋭角となることから、歩行者及び自転車の巻き込み事故を防止するため、横断歩道周辺にグリーンベルトの増設、外側線、ガードパイプを設置しました。

令和3年度には北側、西側道路にある横断歩道を強調し、運転者の注意喚起をするため、横断歩道の白色の間にグリーンカラー塗装も行っています。

さらに、令和7年1月22日の交通死亡事故発生後には、犬山警察署による西側道路の北側に交通死亡事故現場、北側道路の西側に飛び出し注意の啓発看板が設置されています。

ただいま答弁させていただいたように、この変則四差路につきましては、市としましても、危険な交差点と認識をしており、様々な対策を講じてきております。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございます。行政としてもやれることをやってきたということは理解をしています。しかしながら、こうした事故が起きてしまいますと、今まで講じてきた対策に対しても、無力感を感じてしまうというところが正直なところでございます。

そもそもこの四差路については、都市計画道路橋爪高尾線と大きく関係しており、地元か

らはいつできるのかという声をよく聞きます。しかし、一方で、現在は蟬屋長塚線を次期整備路線として進めていくということは理解しております。当然、蟬屋長塚線の次は橋爪高尾線だという思いもありますが、今日はそうした論点ではなく、この四差路については、都市計画道路の整備を待っている時間はないというような思いで質問をいたします。

単刀直入にお尋ねしますが、この変則四差路について、交差点の改良など、暫定的にでもできる、さらなる安全対策はないのか、再質問でお伺いします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） 再質問にお答えします。

先ほど答弁しましたように、この交差点は変則な四差路であることから、様々な対策を実施しており、交通死亡事故後の2月7日に、犬山警察署と現場立会いを行いました。現状のままで新たな安全対策を講じることは困難であると考えています。

立会い時の話合いからも、次は交差点改良による対策を考える必要があるため、まずどのような方法で安全対策ができるのかを検討したいと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございます。現時点のままで、これ以上の安全対策は困難だということでした。

やはり交差点の改良を行うしかないのかなという印象です。一方で、この変則四差路の南側には新たな住宅も多く建設されています。今後は今まであまり車の出入りが少なかった南側道路の出入り、これが増えることが考えられます。また、南側の道路も、非常に幅員が狭いということもありまして、今後、危険度がさらに増すことも予想されています。

交差点改良についても検討していただけるということでしたので、こちらの変則四差路に関しては、引き続き課題意識を持っていただき、議論を進めていただくように指摘をして、次の質問に進みます。

件名2、防犯対策についてお伺いいたします。

まちの防犯対策については、以前、増田議員が一戸一灯運動の推進ということで取り上げられており、センサーライトや防犯カメラに対する補助金が出ているということや、警察と連携した一户一灯運動の普及推進について答弁されていました。

市としてもいろんな防犯対策について警察とも連携をし、進めていただいているとは思いますが、犯人は逮捕されましたが、先日も市内のコンビニエンスストアでの強盗事件が発生するなど、犯罪はいつどこで起こるか分かりません。

先ほど小川議員の質問でも、自転車の盗難という話もありましたが、私事でありますけど、僕自身も今年1月に、昨年買ったばかりの自転車を、城下町で盗難されるという経験をしました。鍵をしてあっても、悪意があればほんの数秒で持って行かれてしまうんだということです。そして、後から聞いた話ですが、私の自転車を盗難された当日に、犬山駅前でも同じような自転車を盗難された方がいると、もっと高い自転車を盗難された方がいるという話を聞きました。

なかなか防犯というのは分かっているつもりでも、実際に自分が被害に遭って実感するものだなと思ひまして、今回の質問をさせていただきました。

まず、要旨1として、現在、犬山市で行っている防犯対策について、改めてどういったことを想定した施策が展開されているのかお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

当市では4つの補助金により、市民や団体の防犯に対する取組を支援しています。

1つ目は、防犯対策費補助金です。

これは防犯カメラやセンサーライトなど住宅への侵入を防ぐための物品購入に対して補助金を交付するものです。1世帯、1回限りの申請で要した費用の2分の1を補助します。交付上限は1万円です。実績としては、令和5年度60件、令和6年度は2月19日時点となりますが、141件の申請がありました。

2つ目は、特殊詐欺防止用電話機器購入費補助金です。

これは特殊詐欺被害を未然に防止するための電話機購入や取り付けに対して補助金を交付するものです。65歳以上の方か、同一世帯の方が対象で、要した費用の2分の1を補助します。交付上限は5,000円です。実績は、令和5年度83件、令和6年度107件です。

3つ目は、防犯カメラ設置費補助金です。

これは町内会や自治会などの団体が犯罪防止を目的に防犯カメラを設置する際に、設置費用に対して補助金を交付するものです。設置費用の2分の1を補助し、交付上限は50万円です。実績は令和5年度2団体に7基、令和6年度1団体に1基です。

4つ目は、自主防犯パトロール団体等活動費補助金です。

これはコミュニティなどの団体が青パトによる防犯活動を実施するに当たり、使用した分の燃料費を補助するものです。交付上限は年間10万円です。現在3団体が活動をされています。

そのほかには、一戸一灯運動や、犬山警察署と連携した防犯キャンペーン、主要な交差点等へ防犯カメラの設置を行っています。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございました。

数々の防犯対策が行われていることは分かりました。こうした防犯対策を講じる、特に大切な要素として、領域性だとか、抵抗性、監視性ということがよく言われています。領域性というのは、フェンスなど物理的な境界線を作って侵入できないようにすること。抵抗性とは、住宅や店舗であれば二重ロックだとか、防犯ガラスなどの設置です。そして監視性というのは、周囲からの視線や、見通しがよくなるとか、明るさを担保するなどが上げられます。

領域性や抵抗性に関しては、各個々人で対応していただく必要がありますが、この監視性については、地域で実施できる犯罪抑止の方法の一つじゃないかと考えます。

先ほど話しました、僕の自転車を盗難されたときですが、時間は19時頃でした。既に日も

落ちて、暗い状況ではありましたが、城下町は等間隔で街路灯が設置されているため、明るさに関してはしっかりと担保されていたと思います。

一方で、周囲の視線という意味では、皆さんご存じのとおり、17時頃を過ぎると、本町通のお店もシャッターを閉めて、人通りが急激に少なくなります。当日も19時という時間ですから、当然歩いている人の様子もなく、明るいものの人の気配がない通りとなっています。このように昼間は人が多くて、夜になると人通りが少なくなる場所は、こうした犯罪者にとって格好の場所になるということも警察からお伺いしました。

そして、城下町だけでなく、市全体として地域の防犯意識を高めて、犯罪抑止をできる方法はないかといういろいろ調べておりましたところ、茨城県のつくば市において、2015年頃からジョグパトという活動を実施されていました。ジョグパトとはジョギングやウォーキング、散歩などの機会に地域のパトロールを行う防犯ボランティアの活動です。

実際に行われているつくば市にある筑波大学の調査によると、ジョグパトによる監視性の確保により、犯罪防止につながり、防犯効果があるというふうに報告がされていました。現在はこのジョグパトの活動が全国に広がりまして、愛知県内では長久手市だとか、名古屋市の瑞穂区などがジョグパトの活動をされています。

私自身、ジョギングはあまり得意ではありませんが、こうした活動を通じて、市民みんなで防犯意識を高めて、犯罪抑止になればと考えますが、このジョグパトについて、本市として実施の可能性について要旨2としてお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

まちの中に人の目があるということを定着させることは、犯罪抑止につながる可能性がありますので、ジョグパトの取組はよい事例かと思えます。

しかしながら、ジョグパトを実施する参加者に配布するビブスや缶バッジなどのパトロールグッズの費用がかかること、ジョグパトの防犯効果を具体的に測ることが難しいこと、参加者の確保や継続的な実施の見込み、参加者の安全性の確保などの検討が必要と考えられます。

このことから、経費や効果、継続性など様々な観点でジョグパトに限らず、町内会への防犯活動補助など、ほかの事例も含めて研究をしていきます。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございます。要旨1で伺った答弁の中では、この青パトが監視性という観点での防犯対策ではあると思いますが、青パトの運用はなかなかハードルも高いので、ハードルを下げて、誰でも参加できる監視性の視点から、ジョグパトを提案させていただきました。

先日、犬山祭保存会にてこ委員会の夜警がありまして、拍子木を持って城下町を練り歩きました。こうやって人が多く歩いていけば、悪いことを考えている人もやりづらいらるうなと思いつながりながら夜警に参加しました。

ビブスや腕章、缶バッジなどの費用がかかるので、すぐには難しいかなと思いますが、やはり防犯対策において、この監視性というのは大変重要な視点だと思いますので、例えば防犯協会と連動して実施するなど、市民の皆さんにも協力いただけるような、人の目を使った防犯対策の研究に今後も期待しております。

続いて、件名3に移ります。

ふるさと納税についてお伺いいたします。

ふるさと納税については、1年半前の令和5年9月議会にて一般質問させていただきました。当時は総務省のレギュレーションが変更になったために、それまでに右肩上がりが増えて納税額が伸び悩んでしまいまして、大変厳しい状況になっている中で、今後の対策や対応について議論させていただきました。

結果として、令和5年度の実績としては6億3,300万円程度となり、当初の目標を大きく下回る結果となってしまいました。

しかしながら、この状況に手をこまねいているだけではなく、本市としては、新規事業者の開拓や返礼品の品目を増やす、または既存の事業者と交渉した新たな返礼品の開発などをされるという答弁もありました。また、新しいポータルサイトについても、連携を始めるなどの動きがあったと思います。

そこで、要旨1として、今年度のふるさと納税の状況、そして、総務省がレギュレーションを変更した令和5年度より対応されてきた対策とその結果についてお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

今年度の寄附額については、1月末時点で約3億177万円となっており、前年度の同時期の約5億6,975万円と比較すると、2億6,798万円ほどの減少となり、現時点では、前年度の約53%で推移しています。

また、令和5年度決算額の約6億2,610万円と比較すると、約48.2%となっています。

寄附額の増減については、寄附者によるところが大きいので、その要因を特定することは難しいですが、総務省のレギュレーションの厳格化や、商品の市内製造停止などの理由で、昨年の主力返礼品であったベビー用品や、特定保健用食品（トクホ）の飲料水がラインナップから外れたことが大きな要因だと考えております。

このため、停止したトクホの飲料水については、市長によるトップセールスを行い、一部については、今年度6月より再度受付を開始することができるようになりました。その結果、この返礼品単体では昨年度を上回る寄附を集めています。

また、ベビー用品については、改めて国と協議し、再申請した結果、市内で企画した商品については、今年度11月より再開をすることができるようになりました。

このように様々な取組を行いましたが、寄附額の劇的な挽回には至っていません。ただ、担当課としてもこのまま手をこまねいているだけでは状況は変わりませんので、寄附を集める取組として、先進自治体の成功例を参考に、大きく3つの取組を進めています。

まず1つ目は、精力的に新規事業者を開拓し、記念品の品目を増やしたり、既存の事業者と交渉し、新しい記念品を開発したりしています。今年度は46事業所を訪問し、127品目を増やしました。

2つ目は、より多くの方に犬山市を選んでいただけるよう、ポータルサイトでは、7サイトを増設し、3つ目として、掲載されている返礼品画像の見栄えをよくするような取組をしています。

これらの新しい取組による令和6年度の影響額は、1月末時点で約4,800万円と試算しています。

さらに、新しい取組として、令和5年度に開始した現地決済型のふるさと納税にも力を入れており、運営事業者の協力の下、宿泊施設などとの連携を進めているところです。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございました。

なかなか厳しい状況だなというような感想を持ちました。しかし、一方で、市長のトップセールスにより復活した人気の返礼品などがあったことも分かりました。

ふるさと納税の状況については、私も常に気にしており、担当課と話すときには様子をうかがっていましたが、そうした際にも、担当課長が返礼品を増やすために足で稼ぎますというような、民間企業の営業マンのように言っていた、非常に心強いなど。その成果も聞くことができ大変よかったですと思います。

また、前回の一般質問で提案させていただいた現地決済型のふるさと納税も、所轄福祉施設などと連携して進めていただいていることが分かりました。

1点、再質問でお伺いします。

この宿泊施設と連携して進めている現地決済型のふるさと納税について、導入によりどの程度の効果があったのかお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） 再質問にお答えします。

現地決済型のふるさと納税の仕組みである、ふるさと応援納税については、令和5年11月末に導入しました。現在、宿泊施設や飲食店、レジャー施設など15の事業者において利用することができ、寄附の実績については、令和5年度で約350万円、令和6年度では、1月末現在で約1,000万円となっています。

また、寄附における返礼内容を分析しますと、宿泊施設で寄附の申込みをし、そこで発行された電子クーポンで宿泊代を支払うといった利用が一番多い結果となっています。

ふるさと応援納税については、契約内容において、運営事業者が参加事業者の新規開拓も行っていくことになっていますので、引き続き市としても積極的に市内店舗の情報提供を行いながら、運営事業者に対して強く働きかけを行っていきたいと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございました。ふるさと応援納税により、新しい切り

口での納税ができていたことが分かりました。引き続き、この現地決済型の連携事業者を増やしていただくと期待します。

続いて、要旨2、自動販売機型のふるさと納税についてお伺いいたします。

まずは資料をご覧ください。

これは昨年、創犬会の会派視察で宮崎県に行ったときの宮崎空港の写真です。視察目的は全然違いましたが、大変興味深い取組だと思い、写真を撮ってしまいました。

この自動販売機も現地決済型のふるさと納税であり、こちらの自動販売機で免許証などを読み込み、商品を選択して決済することで、この空港の場合は隣にあるお店で商品と引き換えができる券が出てくるという仕組みになっておりました。同じような仕組みで、ゴルフ場などにも設置されており、設置している事業者にヒアリングしたところ、この自動販売機のふるさと納税により、当日のプレー代金が割引になるというようなこともありまして、1か月で2,000万円以上の寄附金があるゴルフ場もあるということでした。

デジタル庁のデジタル地方創生サービスカタログにも載っておりまして、こちらの仕組みを導入している自治体は、今、全国で50自治体ぐらいあるということです。

また、こちらの自動販売機ですね、企業版のふるさと納税にも対応しているということで、企業からこちらの自動販売機を現物で寄附していただく、そういったことも可能でして、金額ではない物納というのはあまりまだ多くの事例がないことから、メディア等での取扱いも期待でき、周知にもメリットがあるのではないかと考えます。

そこで、この現地決済型のふるさと納税の一つの手段として、自動販売機型のふるさと納税の導入を提案しますが、当局のお考えをお伺いします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

自動販売機によるふるさと納税については、過去にも検討を行っています。その際には、導入時に自動販売機を購入またはレンタルするといったイニシャルコストが必要となる点や、市内の返礼事業者への導入可能性について聞き取り結果が芳しくなかったこと、先進自治体に聞き取りも行った結果等を踏まえ、総合的に判断し、導入を見送った経緯があります。

あわせて現在の寄附状況を見ると、総務省のルール改正により、寄附額に占める経費を5割以内にするという運用になっていますので、寄附額に連動しない固定経費が増加することがネックとなります。

今後も、先進自治体を参考に、自動販売機方式も含めて、寄附者が手軽に寄附できるような様々な方法について幅広く調査研究をしていきたいと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番（畑 竜介君） 答弁ありがとうございます。導入にはなかなか条件が厳しいというような答弁でした。

答弁であったような5割以下の経費負担については、多分同じ業者だと思いますが、僕もヒアリングをしまして、今はそういったこともクリアできるようなやり方もあるというよう

なことも聞いております。

ふるさと納税を利用したことの少ない人の多くは、やはり手続が面倒だとか、仕組みがよく分からんと言われる方が多いというのも事実でございます。自販機型はこうした側面から手軽に、分かりやすいふるさと納税の一つの方法だとは思いますが、先ほど申し上げました企業版のふるさと納税の仕組みを使うなども研究していただくとともに、私自身もまた企業のほうにヒアリングして研究していきたいと思っておりますので、引き続きお願いします。

件名4、施政方針についてお伺いたします。要旨は1点、観光施策についてお伺いたします。

施政方針の演説の中で、観光施策は犬山市観光戦略に基づき取組を進めますとありました。この犬山市観光戦略を見ますと、宿泊者の増加や体験メニューの充実による滞在時間の延長、平準化や分散化など、現在の犬山観光の未来に向けての多くの課題が列記されています。

令和7年度施政方針演説を聞いている中で、平準化や分散化、体験メニューの充実化、放出化などは聞くことができましたが、滞在時間の延長や消費金額の拡大などに大きく貢献が期待される宿泊者の増加に向けての施策についての言及がありませんでした。市としてこの犬山市観光の宿泊者増に向けては、どのように考えているのか、2点、お伺いたします。

1点目は、近年の宿泊者数の状況について、そして、2点目として、今後、宿泊者増に向けてどのように取り組んでいくのか、以上、2点についてお伺いたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

新原経済環境部長。

〔経済環境部長 新原君登壇〕

◎経済環境部長（新原達也君） ご質問にお答えします。

犬山市観光戦略では宿泊者数の増加を計画の重要な目標指標に設定しています。宿泊によって滞在時間が延長し、消費が拡大することは、地域経済の活性化に資することから、極めて重要であると認識しています。

1点目の宿泊者数の状況ですが、直近3年間では、令和4年は11万2,812人で、対前年比で約221%、令和5年は17万668人となり、対前年比では約151%、令和6年は19万5,399人で対前年比では約114%となっており、毎年堅調に推移をしています。

次に、2点目の宿泊者数増加に向けた今後の考え方についてですが、これまで以上に宿泊者数を増やし、さらに消費を拡大していくためには、特にコンテンツ造成、回遊性向上、遠方への広報宣伝活動が重要と認識しています。朝夕に楽しめる魅力的なコンテンツを造成、提供すること、テーマパークや神社仏閣、東部丘陵の豊かな自然など、市域全体への回遊を促すことが必要であると考えております。

また、遠方からの誘客も重要で、インバウンド需要の取込みだけではなく、国内においても関東や関西をはじめとした地域へのプロモーション活動を行い、認知度を高めていく必要がありますので、複合的な取組を継続的に実施して、宿泊者数を伸ばしていけるよう、引き続き尽力してまいります。

◎議長（柴田浩行君） 畑議員。

◎9番(畑 竜介君) 答弁ありがとうございました。

コロナ禍に急降下した宿泊数も、当初目標としていた20万人に迫る勢いで回復している様子が分かりました。また、宿泊者数を増やすためには、コンテンツ造成や回遊性の向上とともに、遠方での広報活動、宣伝活動が重要だという答弁もありました。

東海地方では犬山市は大変メジャーになってきましたが、やはり全国的に見ると、もうひと踏ん張りしたいところだなというところもあります。今年は9月に愛知県で初めてのツーリズムEXPOジャパンが開催されますので、こうした機会をしっかりと捉えて、日本全国、そして世界へのプロモーション活動に期待をしております。

多分、今回で新原部長と議会で話をするのは最後かと思いますが、犬山の歌もあると聞いてますんで、これからは音楽で観光のほうもサポートしていただければと思います。

以上で、私の一般質問終わります。ありがとうございました。

◎議長(柴田浩行君) 9番 畑 竜介議員の質問は終わりました。

お諮りいたします。午前中の会議はこれをもって打ち切り、午後1時まで休憩いたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

◎議長(柴田浩行君) 異議なしと認め、さよう決しました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時18分 休憩

再 開

午後1時00分 開議

◎議長(柴田浩行君) 休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

一般質問を続行いたします。

8番 小川清美議員。

◎8番(小川清美君) 8番、創犬会、小川清美でございます。議長のお許しがいただきましたので、5件の一般質問をさせていただきたいと思っております。

件名1、避難所についてということで質問させていただきますが、本題に入る前に、東日本大震災の復興に当たり、当市からも職員を派遣し、少なからずご縁がある岩手県大船渡市では、大規模な山火事により、多くの方が今も避難生活を送っていらっしゃいます。心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い終息を願いたいと思っております。

さて、要旨1、避難所における現状についてでございます。

昨年1月1日に発生した能登半島地震について、災害関連死が235人となり、熊本地震を上回ったということが、少し前になりますが、昨年11月にニュースとなりました。

こうした災害関連死の一つの要因として、避難所における生活環境が挙げられます。当市における避難所整備は、年々改善されてきており、装備品の内容や備蓄品の備蓄量も数年前に比べれば随分充実してきているものと思っております。

そこで、当市の現時点での避難所の備蓄トイレ数及び1基当たりの対象人数や、1人当たりの避難スペースの大きさについてお尋ねをいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

現在、トイレの備蓄は、組立て式仮設トイレ90基、簡易トイレ410基の合計500基あり、これらのトイレは、市内の防災倉庫に分散して配備しています。

発災時には、避難者数に合わせて必要な数を避難所へ配置し、災害の規模にもよりますが、避難者50人当たり1基を目安に2万5,000人に対応できるようにしています。

また、備蓄しているトイレのほかに、マンホールトイレを下水道整備区域内にある8か所の小中学校などの避難所に、各5基、内田防災公園、羽黒中央公園に各7基の計54基設置しています。

次に、避難所スペースの現状ですが、避難生活が必要となった場合、1人当たり2～3平米を目安としてスペースを確保することとして、この面積を目安にすると、市内33か所の指定避難所で約6,400人を受け入れることができます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。

当市における避難所のトイレ数は、50人当たり1基を目安として500基を備蓄、また避難スペースは1人2から3平米を目安として33か所の避難所で6,400人収容ということで理解をいたしました。

要旨2点目です。運営指針改定についてでございます。防災や避難について、全国自治体でいろいろと取り組まれている中ではありますが、内閣府は昨年12月に避難所運営に関する自治体向け指針を改定いたしました。

内容は、被災者の権利保護を提唱する国際基準、いわゆるスフィア基準を反映したもので、これまで参考扱いであったものが、避難所の質向上の指標ということで位置づけられたということでございます。

そこで、まず改定内容についてお示しいただきたいと思えます。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

令和6年能登半島地震などの経験を踏まえ、内閣府は令和6年12月に「避難所生活における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」、「避難所運営等避難生活支援のためのガイドライン」、「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」の3つの指針を改定しました。

主な改定の内容の項目は4つあります。

1つ目は「トイレの確保・管理」です。

災害発生初期段階では避難者50人当たり1基、その後、中期段階では20人当たり1基とすることや、女性用と男性用の割合が3対1となるよう対応することとされています。これは「人道援助の最低基準」（通称：スフィア基準）に沿うものです。

2つ目は「生活空間の確保」です。

こちらでは、避難所での1人当たりの居住スペースをスフィア基準に沿った最低3.5平米を確保するよう示されています。また、感染症防止のため避難所は土足厳禁の徹底が示されています。

3つ目は「食事の質の確保」です。

キッチンカー等の事業者と協定を締結するなど、平時からの連携体制を構築し、発災時には温かい食事を速やかに提供することが示されています。

4つ目は「生活水の確保」です。入浴や洗濯をするための水の確保のほか、シャワーや仮設風呂などの入浴施設を50人に1つ、男女別に設けることが示されています。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。今回の改正はかなり重い内容が盛り込まれているというふうに考えております。そこで、国際基準が指標として位置づけられたことによる本市への影響と今後の対応について、再質問をさせていただきます。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） 再質問にお答えします。

トイレの確保・管理について、改定された指針によると、発災後中期段階では避難者20人当たり1基となり、加えて男女比を考慮した数の備蓄を進める必要があります。

また、避難所での居住スペースについては、1人当たり2～3平米の広さを3.5平米に広くすることで、各避難所での受入れ可能人数が減少します。

しかしながら、避難所担当職員のほか、復旧に係る優先すべき業務や交代要員の確保など、災害対応に当たる職員の体制を考えると、これ以上指定避難所を増やすことはできません。

今後は、発災後のフェーズに合わせ、改定された指針に沿った避難所の運営を目指し準備を進めていきますが、大規模災害時には、トイレなどの資機材や、食料や水などの備蓄、そして避難所での居住スペースなどの不足が想定されます。

そのため、平時の備えとして、家庭での備蓄のほかにも、自宅で避難生活をする在宅避難や、親戚や友人宅に避難する縁故避難、地域で開設する自主避難所への避難など分散避難が推奨されており、避難所以外に避難する場所を事前に想定しておくことも重要です。

引き続き、自分の命は自分で守る「自助」の取組について、より一層啓発していきます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。指定避難所を今より増やすことは、職員体制あるいは物理的ということだと思いますが、難しいということなので、受入れ可能人数を減らし、その分、分散避難など、そういった考え方について市民啓発をしていくということで、ある意味仕方のないことと理解をさせていただきます。

それでは、次、件名2、成田富士入鹿線前原区間道路整備について、お尋ねしたいと思います。

要旨は、来年度工事内容と工程についてということでございます。

成田富士入鹿線道路整備については、毎年この年度末議会において、質問をさせていただいておりますが、今回もお聞きしたいと思います。それだけ地元の方々にとっては関心がある事業ということで、ご理解をいただきたいと思っております。

また、県事業ということなので、直接的には一宮建設事務所が所管していますが、市内の重要な河川道路に関わることでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

さて、本道路整備は、3年後の令和9年度を完了年度として鋭意進められていると思っております。そこで、来年度の工事内容とおおむねのスケジュールについてお示しをさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

愛知県施工による都市計画道路成田富士入鹿線は、塔野地大畔交差点から前原向屋敷交差点までの約1キロメートルを事業区間として、整備が進められています。

来年度の工事について愛知県に確認したところ、既に発注している（仮称）楼門高架橋の南側の橋台工事を5月まで実施するのに加え、今年度の補正予算で、汚染土掘削に向けた水処理施設の設置や、前原横町交差点付近の道路築造などの工事を3月に発注していく予定の工事があるとのことでした。

また、来年度のスケジュールについては、愛知県の当初予算が成立前で、一宮建設事務所へ配分額が不明のため、示されませんでした。引き続き、汚染土掘削に向けた工事を継続して実施していくとのことでした。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございます。

来年度の工事は5月までの神社南側の橋台工事、これ以降は交差部の道路築造や引き続きの汚染土掘削関連の工事を実施するということで理解をいたしました。

再質問をさせていただきます。

現時点で、当初予算の完了時期、要は開通時期でございますが、について変更はないか、お伺いをいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） 再質問にお答えします。

都市計画道路成田富士入鹿線の整備完了時期は、現時点で当初予定の令和9年度から変更はなく、愛知県は、引き続き、早期完了を目指して事業進捗を図り、予算の確保に努めていくとのことでした。

市としましても令和6年12月に市長が直接、愛知県に道路整備促進と早期完了の要望書を提出しており、今後も、早期完了に向けて、あらゆる機会を捉えて要望していきます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。現時点では開通時期に変更がないということでした。安心をいたしました。愛知県には頑張ってくださいと、市は事あるごとに県に対して要望していただけたということなので、引き続き期待をしたいと思います。

続いて、件名3、鵜飼事業について、要旨は1点、近隣市町の動向と文化遺産登録についてということで質問をさせていただきます。

本年2月2日の中日新聞に、「鵜飼・海女無形遺産連携」といった見出しの記事が掲載されていました。内容は岐阜、三重、石川県内の5市がユネスコの無形文化遺産への合同登録を目指し、伝統的漁撈文化ユネスコ登録推進協議会を設立したというものでございます。

そこで、この記事に関連し、2点お伺いをいたします。

主に観光面という切り口からかもしれませんが、現在、犬山市をはじめ全国で鵜飼を開催している11市から、鵜匠、船頭、自治体の職員、そしてウミウの捕獲地であります茨城県日立市が集まりまして、全国鵜飼サミットを開催しています。

平成6年から開かれており、それぞれの地域で抱えている問題などについて意見交換し、解決策を見つけるということを目指しています。そして、先ほど申し上げました新聞掲載の岐阜市と関市もこのメンバーとなっています。

そこで、まず1点目として、こうした動きを察知していたのかどうか。また、過去においてサミットやその他の会議も含めまして、文化遺産登録について話し合われたことがあるのか、お聞きします。

2点目としてお尋ねしますが、前回の議会において、犬山城の世界文化遺産登録について一般質問を私はさせていただきましたが、このときは単独で目指すより、同様の課題を持つ自治体等がまとまって包括的に取り組むべきということをお願いしました。また、先月16日には、國學院大学の西村幸夫先生をお迎えして、世界文化遺産の思想と潮流ということで、大変貴重な講演を聞かせていただきました。

鵜飼の世界遺産登録を目指すことは意義があることは思っていますが、そのためには、全国で足並みをそろえることが重要と考えます。

鵜飼のユネスコの無形文化遺産登録についての市の見解や、今後どう展開すべきかなど、現時点でのお考えについてお聞きしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） ご質問にお答えします。

今回設立された「伝統的漁撈文化ユネスコ登録推進協議会」は、国の重要無形民俗文化財に指定されている鵜飼漁と海女漁がある5市、具体的には鵜飼漁の岐阜市と関市、海女漁の輪島市、鳥羽市、志摩市によって、伝統的漁撈文化のユネスコ無形文化遺産登録を目指して

令和7年2月に設立されました。

市はこれまで、先ほど議員よりもご紹介がありましたが、全国の鵜飼開催地とウミウ捕獲地の関係者が一堂に会する全国鵜飼サミットに参加しています。

観光課に確認したところ、令和5年10月の宇治大会と同時開催されたウミウ捕獲技術保存協議会臨時会の中で岐阜市から、国の指定を受けているほかの鵜飼漁や、海女漁とのグループ化による登録に向けた取組について報告があったのみで、具体的な協議がされた経緯はないとのことでした。

続きまして、2点目の市の見解や今後の展開に関する現時点での考えについてお答えします。

ユネスコ無形文化遺産に対する現在の国の対応方針は、文化財保護法に基づく国の保護措置が図られていることが条件の一つであり、国の重要無形民俗文化財に指定されている鵜飼漁は岐阜市と関市だけであるため、市としては、伝統的漁撈文化ユネスコ登録推進協議会への参加は現状では難しいと考えています。

つきましては、国や全国鵜飼サミット参加市の動向把握に努めながら、伝統的漁撈文化ユネスコ登録推進協議会への参加の可能性を探るとともに、文化面・観光面の様々な取組を通じて、木曾川犬山鵜飼の保存・伝承を図ってまいります。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。現在の鵜飼事業では、協議会への参入は難しいということで、十分理解をいたしました。今後はまず、国の民俗文化財への指定に向け取り組んでいただくことを期待しまして、次の質問に移ります。

件名4、本年度事業の成果等についてでございます。

まだ1年、終わっておりませんが、令和6年度の事業から気になった件を2点、お尋ねさせていただきます。

要旨1、湿地サミットについてです。

昨年の10月3日に湿地サミットが開催されました。いかに湿地を保護し、保存していくかをテーマとして、南部公民館で開催されたということです。こうした環境を保護、保全することは重要なことではありますが、一方で、市民の皆さんや多くの方々に、自然や湿地の状況を知っていただくことも大切と思っています。

そこで、昨年のサミットの内容はどうであったのか。得られた成果を今後どう生かし、どう取り組んでいくのかについて、お聞きしたいと思います。お願いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

新原経済環境部長。

〔経済環境部長 新原君登壇〕

◎経済環境部長（新原達也君） ご質問にお答えします。

湿地サミットは、「いかに湿地を保護し、保存していくか」をテーマに、県内13の自治体による輪番制で開催しており、昨年10月3日に南部公民館で開催し、自治体の職員、それから各自自治体で活動している環境保全団体の関係者、およそ150名が集まりました。

午前の部では、八曾湿地の保全活動を行っているNPO法人犬山里山学研究所による八曾

湿地の地域特性の説明や、保全活動の報告、また、「市民による湧水湿地の保全・活用と生態系サービス」と題し、愛知教育大学の富田啓介氏による講演、それから会場ロビーでの、市内環境保全団体2団体の、湿地保全活動の紹介を行いました。

午後の部では、八曾湿地の現地視察の予定しておりましたが、あいにくの天候であったため、犬山里山学センターで八曾湿地の現状説明と意見交換を実施しました。

湿地の保全活動では、まず湿地の存在、湿地から広がる豊かな生態系などの状況を知っていただくことが必要と認識しています。

しかし、同時に、多くの人を訪れることによる湿地の荒廃の懸念や、心ない一部の人による希少植物の盗掘と思われる事例も散見されることから、保全活動を行う人たちの中でも、保存と活用で意見の相違があり、どのようにバランスを取っていくのかが大変難しいところではありますが、今回の湿地サミットの開催により、湿地の保全活動は、生物多様性を育むだけではなく、水資源の供給や、レクリエーションの場の提供といった地域社会に重要な恩恵があること、保全活動の進展に伴って、このような恩恵を受ける範囲も段階的に拡大することを学ぶことができ、新たな知識の共有ができたことが大きな成果となったと考えています。

先ほどもお答えしましたとおり、保存と活用のバランスが難しいところはあるものの、引き続き、環境保全団体との連携を深め、湿地をよりよい形で残していけるよう取り組んでいきたいと考えております。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。やはり保存と活用、この両立をするには難しい面がありますが、一方で、保存するためにはレクリエーションの場の提供ということは必要な要素と考えますので、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

要旨2つ目です。病児保育事業についてでございます。

病気の回復期にあつて、入院は必要ないが集団保育が困難な満1歳から小学校3年生までの児童を対象として、楽田西子ども未来園にて、病後児保育を実施しています。さらに、令和6年4月から総合犬山中央病院にお願いしまして、病児保育事業を展開されています。

そこで、病児保育の年齢別の利用実績や、実際に利用された親御さんの意見や反応はどうであったのか、またこうした意見を踏まえ、改善点等があれば、その内容についてお聞きをいたしたいと思います。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

小幡子ども・子育て監。

〔子ども・子育て監 小幡君登壇〕

◎子ども・子育て監（小幡千尋君） ご質問にお答えします。

病児保育事業は、子どもが病気の際、自宅での保育が困難な場合に、医療機関や保育所等で、病気の児童を一時的にお預かりする事業です。

事業開始した令和6年4月から令和7年1月までの10か月での利用実績は、利用延べ人数54人です。また、各年齢別の延べ人数は、1歳が24人、2歳が10人、3歳が7人、4歳が2人、5歳が5人、6歳が3人、7歳が2人、8歳が1人です、

利用者からは、「預けられるところがあって助かった。」という感想をいただいています。一方、今回、第1期こども計画策定に対するご意見の中で、「病児保育の周知や、利用料の統一化や減額。また、申込方法を簡略化してほしい」というご意見をいただいております。こうした意見を踏まえ、例えば、利便性の点から、利用申込をインターネットでも可能にするといった方法がありますが、受付環境の整備やその対応について、事業受託医療機関である、総合犬山中央病院との協議が必要となります。

この3月で事業開始から1年となりますが、事業周知も含め、まだまだ他自治体の事例を参考に、改善を進めていく必要があるものと認識しています。

病児保育事業の目的である、子どもが病気の際にも安心して預けることができる環境を整備することで、子育てが就労などの制約とならないような支援を今後も引き続き進めていきます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございます。利用者の方々からは、何点かの要望もあるようでございますが、これらの意見に耳を傾け、さらに親御さんに寄り添った形での展開を今後も期待したいと思います。よろしく願いいたします。

続いて、件名5、施政方針から質問をさせていただきます。

要旨としては1点でございますが、通話録音機能電話の導入についてでございます。

職員の働きやすい職場環境づくりの一環として、カスタマーハラスメントから職員を守るため、通話録音機能を持った電話を導入することによって、新年度予算では971万円が計上されています。

企業に対しての理不尽なクレームなどが大きな社会問題となっている昨今にあっては、至極当然なことと思っております。

私も時折サポートセンターなどに電話をしますが、相手方につながる前に、会話を録音させていただきますのでご理解くださいとか、そういった案内が合成音で流れて、次のステップに行くためには、録音に同意しなければならないということを経験いたしております。

そこで、ふと思うんですが、こちらから電話をかける場合はどうなるのかなということですね。こちらからは市からということです。

市役所から電話をかけた職員が、会話の冒頭や重要な話になる前に、録音する旨を口頭で相手方に伝えるといった場合、相手方や電話の要件によっては、ハラスメントを助長するおそれがあり、本末転倒となる可能性があります。私も現役時代に幾つか経験しておるんですが、こっちから電話したにもかかわらず、長い電話の中で強い言葉を発せられたこともあります。

また、口頭の場合、相手方の同意を得られなかった場合はどうするかなど、トラブルを最小限にするため、職員に対する電話設備の教育研修も必要かもしれません。

さらに、本庁舎にかかってくる電話、市から外部へかける電話は相当数あり、そして、そのデータには、プライベートな内容や個人情報が含まれます。こうしたことを踏まえ、1つ目として、想定しているシステムはどのようなものか、分かる範囲で構いません。

それから、2つ目として、収集した録音データの取扱いについて、お尋ねをしたいと思

ます。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

近年、カスタマーハラスメントが社会問題化しており、従業員の働きやすい環境づくりが求められています。

地方自治体においてもカスタマーハラスメントへの対策は急務であると考えことから、通話録音機能電話の導入を検討しています。

通話録音機能電話は、議員が想定されているとおり、市役所に電話をかけると、最初に「この電話はサービス向上のため、録音させていただきます」というアナウンスが流れ、自動的に通話内容が録音されるものです。

通話内容には、プライベートな内容や個人情報が含まれるため、市から架電した場合も含め、通話記録の慎重な取扱いが求められると認識しています。

職員からカスタマーハラスメントの訴えがあった場合の録音データの取扱いにも注意が必要であることから、予算をお認めいただければ、通話録音機能電話を既に導入している先進自治体等に聞き取りを行いながら、適切な運用方法や管理方法を定めていきます。

◎議長（柴田浩行君） 小川議員。

◎8番（小川清美君） 答弁ありがとうございました。運用面ではまだまだ決まっていない点があり、問題もあるかと思っております。先進事例を参考に、これから検討を重ねていくということで理解をいたしました。実際のこの実施に当たっては、職員間の合意形成はもちろんでございますが、市民への周知と導入への理解が必要と考えますので、その辺りについて十分な配慮をお願いいたします。

以上で、今回の私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（柴田浩行君） 8番 小川清美議員の質問は終わりました。

議事の進行上、午前1時45分まで休憩いたします。

午後1時35分 休憩

再 開

午後1時45分 開議

◎議長（柴田浩行君） 休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

議員各位に申し上げます。6番 島田亜紀議員から一般質問に関連する資料を配付する旨、申出がありましたので、これを許可いたしました。

6番 島田亜紀議員。

◎6番（島田亜紀君） 6番、公明クラブ、島田亜紀です。議長のお許しをいただきましたので、通告いたしました4件について、順次質問させていただきます。添付した資料も随時ご

覧ください。

件名1、乳幼児がいるママへの支援について。

厚生労働省人口動態統計によりますと、出生体重が2,500グラム未満の赤ちゃんの割合は約10人に1人が低体重の赤ちゃん、リトルベビーです。近年では、出生数が減少しているものの、低出生体重児の数は毎年増加しています。これは、不妊治療による双子や三つ子の赤ちゃんが増えたことや、新生児医療の進歩により、超低出生体重児の赤ちゃんも救出できるようになったことが大きな要因として挙げられております。

リトルベビーの多くは、早産で生まれた赤ちゃんですが、中には、赤ちゃん自身に何らかの問題を抱えている場合や、ママからの酸素や栄養分を運ぶ働きが不十分で、小さく産まれたなどの場合があります。特にお母さんは自分を責めてしまう傾向にあります。

私の身内も16年前に7か月目で1,512グラムのリトルベビーを出産しました。そのときの気持ちを聞くと、産まれてきてくれた喜びより、おなかの中で育ててあげられなくてごめんねという気持ちのほうが強かったそうです。

手のひらに乗るほどの大きさで、肌の色は褐色がかり、この先大丈夫だろうか、すごく不安だったと言います。産んでから1週間後によりやく我が子を抱くことができました。しかし、早産のため肺の機能が整っておらず、多くの管につながれ、NICU、新生児集中治療室に2か月入院し、母親自身も帝王切開のため、2週間入院いたしました。院内の授乳室で直接母乳をあげている親子を見ては、孤独を感じながら搾乳をして、我が子に届けていたことは、とても複雑だった気持ちだったようです。

こうしたお母さんたちを支えるため、2023年9月、神奈川県では、かながわりトルベビーハンドブックの配布を開始しました。このハンドブックは、従来の母子手帳では記録できない1,000グラム未満の体重などを記入できるなど、当事者目線で工夫された内容となっております。A6判の小さな冊子ながら、当事者の母親たちからは本当に助かる、心の支えになったといった感謝の声が寄せられております。

神奈川県の取組を受け、愛知県を含む全国自治体でもハンドブックの作成、配布を推進してきました。特に、以下の4点がすばらしいと思いました。個々の成長を尊重する記録方式、発育曲線がゼロから自由に成長記録することができること、また、2点目は、親の精神的な支えとなる経験者からの励ましメッセージが掲載されていること、3点目は、医療機関、行政との連携で、切れ目のない支援ネットワークの構築していること、また、4点目は、全国への普及と社会認知の向上、2024年には全国47都道府県で導入されました。

要旨1、低出生体重児のためのリトルベビーハンドブックについて、関連して2点お尋ねいたします。

1点目は、リトルベビーハンドブックが医療機関で配布されるが、必要な親の手元に届いているのか。また受け取っていない場合はないのか。

2点目は、本市におけるリトルベビーハンドブックが必要な低出生体重児の出生数をお尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

高木健康福祉部長。

〔健康福祉部長 高木君登壇〕

◎健康福祉部長（高木 衛君） ご質問にお答えします。

リトルベビーハンドブックは、議員ご案内のとおり、NICU入院中の情報が記録できることや、一般に配布される母子健康手帳では成長記録の一つである発育曲線のグラフが1キログラムから始まるのに対しゼロから始まるなど、小さく産まれた赤ちゃんに配慮した内容となっているもので、出生体重1,500グラム未満で産まれた子どもを持つ保護者の育児を支援するため、母子健康手帳を補完する冊子として、愛知県において令和3年度に作成され、配布がされています。

配布は、低出生体重児などの出産を受け入れている江南厚生病院や小牧市民病院などの愛知県内の周産期母子医療センターで行われています。

なお、県外での出産など、出産施設でハンドブックが配布されていない家庭へは、保健センターでの乳児家庭全戸訪問時にお渡ししており、全ての対象家庭に配布されています。

本市の低出生体重児の数についてですが、低出生体重児の定義は、2,500グラム未満の子どもを指しており、愛知県衛生年報での直近3年間の推移としましては、令和2年が42人、令和3年が35人、令和4年は46人でした。

なお、リトルベビーハンドブックの配布対象となる1,500グラム未満の子どもの数としては、令和2年が5人、令和3年が2人、令和4年で4人となっております。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございます。該当する方に届いていることを確認でき、安心しました。

また、保健師さんには乳幼児家庭を全戸訪問していただき、お声を聞いてもらえることが、出産後の母親にはどれほど心強いかわかりません。今後も、外国籍の方や様々なニーズに合わせて、引き続き支援をお願いし、次の要旨に移ります。

要旨2、誰もが安心して搾乳できる環境づくりについてです。

現在、多くの方が利用する施設には、赤ちゃんに母乳やミルクをあげることなどができる授乳室の設置が進んでおりますが、授乳室で搾乳もできることについては、まだ一般の理解が進んでおりません。

入院中の赤ちゃんに母乳を届けるために、自分で定期的に母乳を搾る必要のある母親は、一人で授乳室を利用して搾乳していた際に、赤ちゃんが一緒にいないのに、一人で一体何をしているんだと、さも目的外利用をしているかのような心ない言葉を投げつけられたことがあるそうです。

また、産後、職場復帰する女性にとっても、職場で安心して搾乳できる場所の確保や、周囲の理解などが課題となっております。

赤ちゃんに授乳しない場合でも、母体では母乳が作られるため、母乳がたまった状態を放置すると痛みが生じたり、乳腺炎等を発症するおそれがあります。数時間ごとに搾乳する必要があるからです。しかし、職場に女性用の休憩室がなかったり、周囲に搾乳に関する知識が、理解がまだないため、トイレで便器に向かって搾乳し、母乳を捨てたことがあるといったお話もありました。

WHO（世界保健機関）は、2歳まで母乳育児を続けることを推奨しており、ILO（国際労働機関）による母性保護勧告では、各国に職場で搾乳する環境を整えるなどのルールをつくるよう求めております。

海外では、企業に対して従業員に搾乳のための時間と場所を提供するよう定めた法律もあり、企業の担当者も女性の復帰を支援することは大いにメリットがあると考え、積極的に投資を行っております。

しかし、国内において、授乳室と搾乳室を併記した表示にしている行政施設や、大型商業施設なども存在しますが、まだまだその数は少ないのが現状であります。女性が出産後、安心して社会参画ができ、健康に活動するためにも、社会全体が出産後の女性の健康管理について正しく理解し、公共施設や職場、商業施設において、安心して搾乳ができる環境を整えることが重要であると考えます。

そこで、まずは公共施設から授乳室でも搾乳できますと提示したり、一目で分かるシンボルマークを表示することで、安心して搾乳できる環境を整えることにつながると考えますが、市としてのご所見をお伺いします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

小幡子ども・子育て監。

〔子ども・子育て監 小幡君登壇〕

◎子ども・子育て監（小幡千尋君） ご質問にお答えします。

市では、乳幼児の授乳やおむつ替えできる場所を「赤ちゃんの駅」として登録し、乳児を持つ保護者の皆さんが、安心して外出できる環境づくりを支援する取組を行っています。

現在では、市役所を始めとする28か所の公共施設と、10か所の民間施設や店舗が、赤ちゃんの駅として登録され、そのほとんどで授乳できる環境が整っています。

これらの赤ちゃんの駅は、一人で外出する母親が、搾乳のためだけに利用することを拒むものではありませんが、赤ちゃん連れの母親に限定していると理解されている方や、女性一人で利用することに違和感を抱く方もいるかと思えます。

議員が提案された、搾乳だけの利用も可能であることを示すシンボルマークの掲示は、母親一人でも気兼ねなく授乳スペースとして利用していただく一つの方法であり、誰もが安心して搾乳ができる環境づくりが必要との考えは市も同じです。

そのため、まずは公共施設の赤ちゃんの駅からとはなりますが、神奈川県が作成し、自由使用を認めているシンボルマークを活用するなど、社会全体で搾乳に対する知識や理解が深まる環境づくりに努めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございました。お母さんたちが一人でも安心して子育てしやすい環境整備をさらに広げていただけてほしいことをお願いし、次の質問に移ります。件名2、がん患者のアピアランスケアについてです。

平成30年と令和3年の11月議会にて、三浦議員より、がん患者のアピアランスケア用品についての一般質問をきっかけに、本市として、令和4年4月からアピアランスケアの助成が実現となりました。

要旨1、現状についてです。

令和4年度から開始されたがん患者のアピアランスケア用品購入費補助事業について、補助対象の、医療用ウィッグと乳房補正具の利用者数をそれぞれ年度ごとの実績についてお尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

高木健康福祉部長。

〔健康福祉部長 高木君登壇〕

◎健康福祉部長（高木 衛君） ご質問にお答えします。

がん患者アピアランスケア用品購入費補助事業は、議員ご案内のとおり、令和4年度から開始された事業となっています。

補助対象としては、医療用ウィッグと乳房補正具としており、補助実績につきましては、令和4年度は、医療用ウィッグ22件、乳房補正具が8件、令和5年度は、医療用ウィッグ20件、乳房補正具が7件、令和6年度は、2月中旬までの実績になりますが、医療用ウィッグが26件、乳房補正具が11件となっています。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございました。義理の母も白血病の治療で髪が抜けてしまったとき、補助があったことで、少し品質の良いものが購入でき、辛い気持ちに寄り添ってもらえたと喜んでおりました。当事者に寄り添った支援であると感じております。

要旨2、エピテーゼを含む支援の拡充についてです。

ここで皆さんに想像していただきたいことがあります。病気やけがで急激に自分の容姿が変化してしまった場合、ちゅうちょせず友達に会ったり、外出したりすることができませんでしょうか。

がん治療の副作用で髪の毛だけではなく、眼球や頬、鼻、耳、指などを欠損してしまうことがあります。人体の部位欠損により、心理的コンプレックスを抱いている人の精神的負担を緩和する目的などで、医療用具として体表に取り付ける人工物のことをエピテーゼと言います、

そこで、お伺いいたします。がん患者へのアピアランスケア事業では、ウィッグ、乳房補正具のみを市は対象としていますが、がん治療に起因する顔面損傷部位等に対する支援も非常に大切だと考えます。ウィッグ、乳房補正具以外のエピテーゼも補助の対象として拡充を図ることを強く要望いたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

高木健康福祉部長。

〔健康福祉部長 高木君登壇〕

◎健康福祉部長（高木 衛君） ご質問にお答えします。

本市では、がんの治療に伴う外見の変貌を補完するために必要となる補装具を、がん患者アピアランス用品購入費補助事業として、県の補助事業を活用し、実施しています。

その補助事業において、乳房補正具の一つとしてエピテーゼも対象としておりますが、乳房以外の部位につきましては、活用している県の補助事業の動向を踏まえ、検討していき

いというふうに考えております。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございます。これからも当事者に寄り添った支援の拡充を心よりお願いし、次の質問に移ります。

2月26日から発生している岩手県大船渡市の大規模山林火災において、避難されている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、消火活動に当たってくださっている自衛隊、消防の方に感謝を申し上げ、一日も早く鎮圧できますよう祈りながら、引き続き質問させていただきます。

このたび、犬山防災ハンドブックが新しく改訂され、2月中旬に全戸配布されました。これは、平成29年6月に三浦議員が市のオリジナル防災ハンドブックを作ってはどうかと提案され、また、多くの先輩議員や市の担当者の皆様の思いがいっぱい詰まって作られたものがあります。4種類のハザードマップと想定される災害と備え、避難と避難生活、日頃からの準備したいことなど、充実した内容となっております。

34ページには、避難はペットと一緒にと、同行避難と同室避難のことが載っております。大事なことは、平時から一人一人の命を守る行動ができるように想像しながら準備することです。ぜひ市民の皆様も防災ハンドブックを見ながら、家族防災会議をしてみてください。

件名3、ペット同室避難についてです。

これまで三浦議員、諏訪議員が、ペット同室避難について様々な角度から質問されてきました。今回は私からも質問させていただきたいと思っております。

今年1月20日、エナジーサポートアリーナにて初めて実施したペット同室避難、また避難所開設訓練について、要旨1、今回の避難所開設訓練の内容についてお尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） 質問にお答えします。

市では、市内33か所の指定避難所のうち市民交流センター（フロイデ）、市体育館エナジーサポートアリーナ、楽田ふれあいセンターの3か所をペット同室避難所に位置付け、運用しています。

これに伴い、避難所担当職員が開設を円滑に行うための訓練として、1月20日に市体育館（エナジーサポートアリーナ）でペット同室避難避難所開設訓練を実施しました。

今年度は、避難者役とペットを公募し、愛知県災害対策課、犬山動物総合医療センターなどの団体の協力・参加の下、犬6匹、猫2匹を実際に施設内に受け入れ、避難所での受付、同室避難スペースの設営、片づけまでの一連の流れを確認しました。

あわせて、避難所で受け入れができないペットの避難を想定し、名鉄小牧線を挟んで隣接する犬山動物総合医療センターでの受け入れ訓練を初めて行いました。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございます。市職員または避難者、施設管理者、ペットの課題を総合的に解決するために、事前の準備と住民協力が重要だということが分かり

ました。また、自主防災組織や企業、自治体が連携し、持続可能な避難所運営を目指して
いてはどうかと考えます。

また、あと実践的な訓練を増やして、災害時にスムーズな対応ができるよう、体制を構築
していただけるようお願いし、次の要旨に移ります。

要旨2、課題についてです。

今回の訓練で出た課題をお教えてください。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

訓練後に実施した参加者による意見交換では、気付いたことや課題について共有しました。

主な意見として、市職員からは「災害時は職員が少ないため、避難者の協力が不可欠」、
避難者役の参加者からは「災害時には避難者が多数になるため、スペースが使用できるかが
心配」、施設管理者からは「利用者の安全確保をしながら、多くの避難者の受入れができる
のが不安」、犬山総合動物医療センターの獣医師からは「夏の暑さや、ペットの逃走への
対策が必要」、参加者全体としては、「テントや簡易ベッドの組立て方法が分からず、時間
がかかる」などの意見がありました。

また、愛知県が実施しているペット同行避難対策事業の実証実験として、県内外14市町村
と2企業の見学がありました。見学者からは「人員不足は明らかなため、避難者にも設営に
携わってもらうことが必要」「短時間でも臭いが気になった」「ペットを飼っていない住民
の理解が必要」などの意見がありました。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございます。

要旨3、今後についてです。

ペット避難について、市内3か所での開設訓練がされましたが、今後の取組についてお教
えください。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

武内市民部長兼防災監。

〔市民部長兼防災監 武内君登壇〕

◎市民部長兼防災監（武内雅洋君） ご質問にお答えします。

ペット同室避難所の開設訓練は、位置づけをした3か所で行いましたが、今年度で3年目
となり一巡しました。毎回新たな課題の発見があり、訓練を繰り返し継続することは、防災
力の向上に大変重要であると考えています。

これまでは、ペット同室避難所の開設に特化した訓練を行ってきましたが、今後は、避難
所運営にシフトした訓練も行っていきたいと考えています。

訓練内容の詳細については、今後検討していきますが、来年度以降も継続的に実施してい
く予定です。

合わせて、犬山動物総合医療センターとも連携しながら、地域の訓練や出前講座での周知

を引き続き行っていきます。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございました。今後、避難所運営にシフトしていくとありましたが、日頃から顔の見える、助け合える関係が、命を守ることにもつながっていくと感じております。

私は先日、コミュニティで防災食の調理体験を行いました。おしゃべりしながら防災について楽しく学ぶことができました。微力ではありますが、これからの犬山市の防災力向上のためになっていけたらと思っております。

件名4、施政方針についてです。

要旨1、子ども大学について。

令和6年度の受講者数は何名みえるのか、また、令和7年度は、20講座に増えるとのことですが、どのような講座を実施する予定なのか、また周知をどのような方法で行っているのか、お尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） ご質問にお答えします。

子ども大学は、学校休業日を利用して、学校、家庭及び地域が一体となって、子どもたちが学ぶ喜びを感じ、自主的に学ぶ気持ちを育てる事業として、平成14年度から開催し、平成16年度からは、特定非営利活動法人犬山市民活動支援センターの会に委託し、NPOならではの柔軟な発想による企画・運営により実施をしています。

令和6年度の定員数は280名でしたが、それを超える応募があったことから、犬山市民活動支援センターの会と協議し、定員数よりも多い318名を受講生とし、その内訳は、小学生312名、中学生6名でした。

受講生と保護者向けに行ったアンケートでは、180件の回答があり、受講生の94%が「参加して楽しい」、保護者では子どもが「次回を待ち遠しくしている」「楽しそう」との回答が93%でした。

このように受講の満足度が高かったことから、令和7年度は、受講生の学ぶ意欲に応えるよう、講座数と定員数を増やす予定で、新たに京都大学ヒト行動進化研究センターの講座を加えます。

引き続き、「国際理解・多文化共生」、「お茶」「お花」「俳句」、獣医の仕事を学ぶ「獣医学部」、農作業を体験できる「農業学部」、「レッツメイクアニメーション」、「原始人クラブ」、「キャンプ部」など多彩な講座を、定員353名に増やし実施するよう準備を進めています。

また、周知の方法は、例年4月に市のホームページに掲載するとともに、入学案内となる募集要項を市内の小中学校を通じて児童生徒に配布しています。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございました。多くの子どもたちが心待ちにしている

子ども大学なのだと再認識いたしました。

再質問で、令和6年度に行われた活動成果発表会に私自身出席したところ、参加者がとても少なかったように思います。

どの講座を見ても、見ている私が心がわくわくするものばかりで、子どもたちは学べた喜びを発表されておりました。すごい感動しました。また、これを多くの市民の皆さんが観覧できるように周知してはとありますが、いかがでしょうか、お尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） 再質問にお答えいたします。

子ども大学活動成果発表会は、市民文化会館大ホールで、受講生が1年間の活動発表をする場で2月9日に開催し、保護者をはじめ家族の皆さんが観覧しますが、令和6年度は、議員ご指摘のとおり、受講生の出席は、30%、97名で、観覧する方も少数という結果となりました。

これは、受講者へ発表会を開催する周知が遅かったこと、講師から受講生へ発表会への参加について伝え方がまちまちだったこと、いぬやまランニングフェスティバルなどほかの催事が開催されたことなど、幾つかの要因がありました。

そこで、活動成果発表会の翌週に、犬山市民活動支援センターの会と打合せを実施し、開校式と活動成果発表会の実施日時を募集要項に明記することや、活動成果発表会のときに受講生の作品を展示する、発表方法を工夫するなど、令和7年度に向けて改善点を整理したところです。

成果発表会は、自分たちの発表であるだけでなく、ほかの講座を観覧することが新たな学びの機会ともなりますので、多くの受講生が成果発表会に参加するよう促すとともに、市民の観覧についても令和7年度から実現できるよう準備を進めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございます。様々な年代で交流することは、子どもも大人も化学反応で元気がもらえることとなります。ぜひ来年度の発表を楽しみにしております。

要旨2です。犬山市立図書館についてです。

子どもの成長に合わせて読書に親しめる機会の提供とは、どのようなものを想定しているのかお尋ねいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） ご質問にお答えします。

市立図書館では子どもの発達段階に応じて、継続して読書に親しめる機会を提供しています。

具体的には、令和6年度では、乳幼児向けにおはなし会の開催や、児童センター、子ども

未来園、こすもす園への団体貸出図書の定期配送、小学生向けには学校図書館と連携したブックイベントの開催や犬山子ども司書講座などのイベント開催、中高生向けにはキャリア教育に関するイベントの開催をしています。

年齢別では、乳幼児と小学生向けに、本の選び方に迷う保護者や子どものサポートとなるよう、年齢に5段階に分けたブックガイドを作成しています。

図書館2階のブックキャンプには、ブックガイドに掲載してある絵本や伝記などを全て配架し、手に取りやすい環境を整えています。

また、新たに中学生向けブックガイドの発行を目指し、どの本を掲載するかを選書などに着手しており、令和7年度、市内の中学校を通じて中学生に配布できるよう準備を進めています。

今後も引き続き、子どもの成長に合わせて、家庭、地域、学校等との連携・協力を深め、読書に親しむ機会の提供と充実を図ってまいります。

◎議長（柴田浩行君） 島田議員。

◎6番（島田亜紀君） 答弁ありがとうございました。

ブックガイドの発行とありましたが、私も見せていただきました。とてもかわいらしいデザインで、犬山にちなんで、図書館、お城、町、学校、古墳、山、池、川と絵が続いていて、遊び心が満載でした。

これからも市民の皆様がよい本に出会い、親しめる環境となるよう働きかけていただきたいとお願いし、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（柴田浩行君） 6番 島田亜紀議員の質問は終わりました。

議事の進行上、午後2時30分まで休憩いたします。

午後2時19分 休憩

再 開

午後2時30分 開議

◎議長（柴田浩行君） 休憩前に引き続き、本会議を再開いたします。

議員各位に申し上げます。3番 増田修治議員から一般質問に関連する資料を配付する旨、申出がありましたので、これを許可いたしました。

3番 増田修治議員。

◎3番（増田修治君） 3番、創犬会、増田修治です。議長のお許しをいただきましたので、事前に通告させていただきました3件について、一般質問を始めさせていただきます。また、資料の添付がございますので、そちらも合わせてご覧いただきながら聞いていただければと思います。

件名1、公園の遊具について。

以前、橋爪子ども未来園及び五郎丸子ども未来園の移転に伴う公園整備について質問をさせていただきましたが、今回は視点を変えて公園について質問してまいりたいと思います。

さて、昨年の建設経済委員会の所管事務調査でも、各地の公園を研究されており、未来の公園デザインラボでも、公園の未来の在り方について様々な課題、検討項目も上がってきたことと思います。また、公園に関しては、都市計画法等により規定されており、街区公園、近隣公園、総合公園、風致公園、広域公園など、用途により様々な種類があります。その中でも、街区公園などの小規模公園については、昔の団地開発時に造られたものが多く、1956年に制定された都市公園法では、滑り台、ブランコ、砂場、公園の三種の神器を設置することが義務づけられており、当時造られた児童公園は、この遊具が今も残っております。

そして、全国的にも住民の高齢化などに伴い、こうした公園、特に遊具は、使用されにくくなってきているのが現状であり、また、遊具の老朽化も相まって、これらの公園の在り方、活用法などについては、様々な課題があるのが現状です。

そこで、今回一般質問として取り上げようと研究を進めている中、今回の予算案で公園整備について上がってきており、大変うれしく思っております。少し視点を変えた形で今回、公園について、遊具について、より深掘りしてお伺いできればと思います。

まず、要旨1、現状について。

先ほど挙げたとおり使われにくくなったなどの実情の公園も多く、老朽化した遊具も多くあることかと思えます。

そこでお伺いします。まずは、当市が管理している公園が幾つあるのか。そして、公園、特に団地などにある街区公園について、当市として、現状どのような課題があると認識しているのか、お伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

市内には79か所の都市公園、62か所のちびっこ広場、4か所の児童遊園があります。

都市公園の内訳は、地区公園が2か所、近隣公園が4か所、街区公園が68か所、緑地が5か所になります。その多くは地元町内会等の76団体に133か所の維持管理を委託しております。

しかしながら、地元町内会なども高齢化や地域活動への参加者の減少により、公園の維持管理をする人材が減少している中で、町内会などへの委託が継続できるかが課題と考えています。

また、本市の街区公園のほとんどが供用開始から40年以上が経過し、遊具やベンチなどの老朽化が進んでいるため、点検に基づく修繕などは行っているものの、公園を利用する人たちの多様なニーズに合った遊具の新設や更新などがほとんどされていなく、公園の魅力が低下していることが課題だと認識をしています。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。当市においても数多くの公園があり、また課題については多岐にわたっていることが分かりました。

それでは、続いて再質問をさせていただきます。

先ほど上がった課題の中でも取り上げていた、老朽化した公園の遊具についてお伺いいたします。

遊具については、全国的にも老朽化は進んでおり、昔の遊具は安全性に劣る製品もあつたり、危険といったことから撤去されているものも増えてきております。

そこでお伺いします。

遊具の撤去や利用禁止などは、どの程度の数が行われているのでしょうか、お伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） 再質問にお答えします。

公園の遊具を常に安全に使用できるよう、年6回の点検を実施しており、この点検により、危険度や劣化度が判定され、判定結果に基づき使用するのが危険と判定されたものについては使用禁止としています。

使用禁止にした遊具については、補修して使用できるようにするか、撤去するかを点検結果に基づき判断をしています。

過去3年で使用禁止とした遊具は、11か所の公園で12基あり、そのうち補修を行い使用している遊具が7基、撤去したものが5基となります。

現時点においては、使用禁止となっている遊具はございません。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） 答弁ありがとうございます。公園の遊具は、先ほど上げさせていただいたとおり、四、五十年ほど前に開発された団地などにあり、老朽化したものも数多くあります。

遊具は単に楽しい遊びを提供するための道具というだけでなく、子どもの体や健康づくり、バランス感覚を養ったり、対応力や想像力を養ったりする上で非常に大切な要素です。

また、小さなけがや痛い思いを経験して、大きなリスクから身を守る術を学ぶのにも役立てられ、成長過程において大きな役割を担っています。

ですが、公園によっては、面積が小さく、古い鉄棒だけ設置してあつたり、少しみすぼらしい公園があるのも実情です。また、市全体で考えた場合にも、公園や遊具は子育て世代にとって、住まいを選定するのに非常に重要な要素でもあり、こうした部分の充実は、移住につながったり、市の魅力を発信したりするのにも役立てられます。単に危険だから遊具を使わないでくださいといった方向に向いてしまうのは、子どもの成長機会を奪うともいえ、遊具が使用禁止、撤去に向かってしまうことは大きな課題でもあります。

そこで、要旨2に移ります。要旨2、遊具の安全について。

遊具には遊具の安全に関する基準が定められています。それに準じて、定期的な点検や補修などを行っていることとは思いますが、遊具はどんどんと老朽化し、新しい遊具に更新していかなければ、補修だけではどうしても難しい部分もあるかと思えます。また、天候や使用条件等により異なってくる部分もありますが、遊具には標準使用期間が定められており、

構造部が鉄製の遊具が15年、木製が10年といった形で目安が定められています。これは耐用年数というわけではありませんが、例えば金具やチェーンなどの消耗部材の交換などは必要であるかと思えます。

半年ほど前には浜松市のほうで、バネ遊具のバネが折れ、けがをしたことで、市が慰謝料を支払うといった事例もあり、適切な修繕を行わなければ、鉄部の腐食などが進みます。私も市内の公園何か所か見させていただきましたが、塗装の補修を行っている遊具や、ブランコのチェーンの交換は見受けられましたが、ボルトや取付け金具などの交換は、昔の遊具で外しにくいといったところもあるかとは思いますが、私が確認した遊具はしていないように見受けられました。ボルトも突き出したりしていて、今の基準では危ないと言われかねない遊具も見受けられました。

また、安全上の問題だけでなく、さびが服についたりするのも嫌だったり、そのさびをなめてしまうと危険なのもあって、鉄部を握りたくなかったりするような心理的な部分もあると思えます。

そこで、近隣市町の古い遊具を使った公園も見に行ったところ、ところどころ遊具の更新も行われているようで、昔の公園にも新しい遊具がありました。遊具については先ほど言ったとおり子どもの成長や地域の方々の健康づくりなどにとって重要であるとも思いますし、撤去、禁止されて遊具が使われなくなることは、その団地に住む子どもたち、これからその地域に住みたいと思ってもらうためにも、非常に重要な要素です。

それでは質問をさせていただきます。撤去や使用禁止の遊具が出てきており、また老朽化の進んだ遊具もある中、ここ最近で、遊具の老朽化に伴い新しい遊具の導入、入れ替えを行った事例はあるのか、お伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

新しい遊具を設置した実績については、令和5年度に3か所の公園で行っており、具体的には椿台公園、富岡ちびっこ広場で3連鉄棒の撤去・新設、成海ちびっこ広場では新規に健康遊具を設置しました。

今年度においても3か所の公園で実施しており、城東団地公園でジャングルジムの撤去・新設、富士苑公園、上時迫間ちびっこ広場の滑り台の撤去・新設を行っております。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。それでは、続いて再質問をさせていただきます。

当市の遊具は、先ほど言った標準使用期間15年を超えたものも多くあり、腐食の問題だけではない、古いがゆえの、安全性の課題もあるかと思えます。

最近の遊具には、遊具の対象年齢表示や遊具安全利用表示のステッカーなどが掲示されておりますが、古い遊具にはついておらず、今の基準は満たさないものもあるかと思えます。安全利用の掲示なども、親御さんの目のつくところに付けることも大切な要素であると考え

ております。

そこで、遊具の安全について、そして、これら遊具の在り方について、どのような考えを持っているのか、当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） 再質問にお答えします。

遊具の安全については、一般社団法人日本公園施設業協会が定めた遊具の安全に関する規準が設けられており、この規準における遊具の製造、点検、修繕ができると認定した事業者が遊具の点検業務委託を行っています。

点検結果により、修繕が必要と判定された遊具は早期修繕、危険判定された遊具については、まずは使用禁止とし、その後修繕するか撤去するかの検討を進めていきます。

検討を進めるに当たり、撤去すると判断した遊具については、撤去後、新しい遊具に取り替える際には、地元がどのような遊具を設置してほしいか、また遊具の必要性も踏まえて、地域の声を聞きながら進めており、今後も同様な対応をしていく考えです。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。公園、特に団地などにあるような小規模の街区公園については、町内の人たちにとっても、草刈りなどの管理が大変といった声も伺います。

そうして町内の皆様が管理してくださっている公園を有効に使っていただくためにも、遊具は重要な要素であると感じます。地元の要望を聞く機会をしっかりと設けて、場所に適した遊具の選定を行っていただければ幸いです。

大きな公園や、これからできる屋内型キッズスペースも非常に大切ではありますが、都市計画法において、開発行為には一定面積以上の公園等を設けることが定められていることから、日常の延長線上にある街区公園をちゃんと遊べる公園にし、整備していくことは、まちづくりとして、団地として重要な要素であると考えます。

現在ある街区公園が、遊具が撤去され更新もなされず、ボール遊びなどが禁止されていたり使いづらい公園になっていることは非常に大きな課題であると思いますし、本来求められている公園の意義を果たしているのだろうかとも思います。遊びたくなる、行きたくなる公園が近くにないことが、人口流出、空き家問題、高齢化などとも少なからずつながっているとも感じます。

新たな住民を増やしていく上で、魅力ある街区公園を整備することは大切であり、近隣市町に人口流出を起ささないためにも重要です。近隣の市町では、公園緑地課などの公園や緑地に特化した課が推進し、新たな遊具を導入したり、更新したりして、公園整備更新を進めておりますが、現在、当市にはこういった課はないので、こうした機構の部分からも強化できればと思います。

それでは、続いての要旨に移りたいと思います。要旨3、今後の展開について。

遊具といっても、今や多種多様な種類のものがあります。音を発したりする体感遊具、体

を使う体育遊具、健康づくりに使う健康遊具、知恵を使って使う知的遊具、また市のメニューにもなるような大型複合遊具など様々なジャンルのものであり、昔のような公園三種の神器ではないものが数多く出てきております。

その場所、場所、住まう世代などによって様々な用途、種類の遊具を導入、更新して、魅力ある公園へとしていくことが大切な要素であると思います。そして、遊具を施工している会社に聞いたところ、近隣市町では、遊具の更新を行っており、羽島市は数年前より遊具の更新をどんどん行っており、羽島市内の公園マップも作成され、公園をPRされております。春日井市も、今後数年で全箇所更新を行っていくようなスピード感を持って行っているようです。

これから子育て世代、子どもたちが健やかに育つまちとしていくためにも、先ほど挙げたように、老朽化した遊具の更新や撤去された公園の遊具設置を行っていくことが望ましいと考えます。

今議会において、ひばりヶ丘公園の整備とモデル公園についての予算が上程されており、期待するばかりではございますが、公園の遊具について、今後の展望について当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

公園の遊具については、令和7年度に予定している犬山ひばりヶ丘公園キッズスペースの整備では、子育て環境の向上のため、小さなお子さんと子育てをされる親に喜ばれる遊具の設置を検討しており、街区公園については、3パターンの再整備を検討する中で、その1つとして子ども向け遊具を充実させ、子どもの遊び場として喜ばれる公園整備を検討しております。

今後の公園遊具の展望については、街区公園の理想の姿である地域に根差した公園にするため、地域ニーズに沿った公園遊具を設置することを目標としております。

子ども向け遊具の設置や、ご年配の方への健康遊具など、様々な遊具が考えられますが、まずは子ども向け遊具の再整備を実施し、再整備を実施した公園に対して、利用頻度などの様々な検証を行います。

今後、他の街区公園においても、地域ニーズに沿った公園遊具の設置を検討していくため、モデルケース公園の検証結果に基づいた遊具設置に対する研究を進めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） 答弁ありがとうございます。遊具の更新は安全に遊具を使うためにも、公園を有効に活用するためにも、市としての魅力の一つとしても、重要な要素であると考えますので、ぜひ行きたくなる公園、遊びに行くのが楽しみな公園整備に力を注いでいただければと思います。

それでは、要旨4に移ります。要旨4、インクルーシブ遊具について。

先日、創犬会にて、広島県福山市にある大手遊具製造メーカーに視察をしてまいりました。

この企業では、個々の自治体の特色、要望に合わせたオリジナルのデザイン設計を行い、工場での製造、塗装、施工、保守と一貫した体制を取っており、業界で最大手の会社であり、顧客の9割は自治体ということもあり、様々な自治体の導入事例や経緯などを伺うことができました。

その自治体の大きな目玉となるような大型複合遊具だけでなく、一般的なブランコや滑り台なども更新用で製造されており、厳しい安全基準に合致した、安全で頑丈な遊具を製造されている会社です。

その企業にご案内いただき、昨年5月に導入されたインクルーシブ遊具を見学させていただきました。インクルーシブ遊具とは、年齢、性別、言語、能力、障害等、様々な個性や感性を持った人々が、分け隔てなく、誰でも一緒に楽しさを共有し、遊べるように設計された遊具で、全国の自治体でも導入されてきております。

設計には非常に多くの工夫がされており、車椅子のままでも遊べる砂場や、姿勢を保たなくても乗れるブランコなどがあります。また、触って遊べたり、音が鳴って遊べる遊具など、五感を刺激するような工夫のある遊具もあります。近場では、小牧市の天王塚公園にブランコが、豊山町の総合福祉センターしいの木に複合遊具、名古屋の名城公園にも様々な遊具が導入をされております。

そこでお伺いします。多様性が求められる社会となっている中、こうした遊具を市としても取り入れていくことは大切であると考えますが、当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

インクルーシブ遊具については既に研究に着手しており、令和6年度に先進地視察や民間施設の調査、インクルーシブ遊具を製作している企業の展示会に参加するなど、情報収集を行っています。

今後行政が多様性社会に対応していく上で、公園遊具においてもインクルーシブ遊具の導入も重要な要素であると考えております。

令和7年度に整備を予定している犬山ひばりヶ丘公園のキッズスペース内には、インクルーシブ遊具を設置予定であり、導入後には検証を行い、今後、他の公園において導入していくかの検討を進めていきます。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。近隣市町でも導入されている自治体は増えてきており、話題も集まっています。導入事例や新商品等を調査研究した上で、ぜひとも誰もが楽しめる遊具の導入をしていただければと思います。

今回上げられている計画では、ひばりヶ丘公園とヨシズヤの屋内遊戯施設整備ということで、こうした整備が北側地区に寄っている印象もありますので、南側地区の整備にも今後期待をしたいと思います。

また、ひばりヶ丘公園の整備においては、遊具だけでなく、遊具まで行く道中においても、

インクルーシブである必要もあるかと思しますので、その辺りもご検討のほどよろしく願いいたします。

先ほどより上げさせていただいているとおり、公園について遊具については、安全の観点及び地域に根差した公園、子どもたちが健やかに遊べる公園にしていくためにも、遊具の更新は進めていかなければいけないと考えます。

また、あらゆる個性を持った人たちが使えるようにすることも模索していくことが大切です。これから橋爪子ども未来園及び五郎丸子ども未来園跡地の公園整備も始まってまいります。昨今、夏は暑いということから、屋内型キッズスペースも設けていくことというのも非常に重要ではありますが、やはり外で遊ぶというのは重要だと思いますし、サンシェードのような日よけを遊具の上とかベンチの上に設けて陰にしたりすることもできます。

市内の公園を有効に活用するためにも、このような遊具の導入を検討することも一つの手法であると思しますので、様々な事例を研究していただき、市の魅力として発信していただければ幸いです。

それでは、続いて、件名2に移ります。件名2、創造都市についてです。

以前より芸術振興についてといった形で一般質問も何度かさせていただきました。今回も芸術振興の分野から上げさせていただきます。前段の件名とも親和性のあるような内容にてお聞きできればと思います。

さて、まずは当市の担当課が機構改革により、スポーツ交流課と文化推進課に分課されたことについてお伺いいたします。

要旨1、文化推進について。

今までは文化スポーツ課と1つの課で、スポーツと文化芸術分野を担ってきたことと思いますが、課が分かれて約1年経過してまいりましたが、分課されたことで見えてきたことや課題、展望などがございましたらお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） ご質問にお答えします。

令和6年度の機構改革により、それまで1つの課で所管していたスポーツ振興分野と文化芸術分野を、スポーツ交流課と文化推進課に分けそれぞれ業務を進めています。

これは、市長の「スポーツによる関係人口の交流を強く推進する」という思いとともに、「これから住みたくなるまち、文化が感じられるまち」という思いが反映され、特に、これまで「犬山市の文化」と言えば、多くの人が「歴史文化」や「文化財」に重点が置かれている印象を持っていたと思いますが、これからは文化芸術にも力を入れていきたいという意思の表れでもあります。

文化推進課となり見えてきた課題、展望としては、文化振興施策を強力に推進していくための文化活動の拠点づくりです。

市民文化会館や南部公民館を文化創造拠点として再整備し、文化芸術活動で市民皆さんの満足度を向上させられるよう、犬山らしいストーリーのある公演などの開催に取り組んでい

るところです。

加えて、市民の主体的な文化芸術活動を支援・後押しをする貸館事業に、より一層努めています。

また、かねてから当市の文化振興の「担い手の高齢化」を認識しています。

文化推進事業を進めていく中で、これからの文化創造に必要なニーズは、活動の場を整備し、担い手への情報提供、これからの担い手となり得る人への啓発、連携を進めていくべきと考えますので、将来に向けて文化芸術が市民の身近に感じられるまちとなるよう取り組んでいるところです。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。分課したことで、これから取り組んでいきたいことなどを伺うことができ、非常に力強く文化振興にも力を入れていただけることが分かりました。

それでは、文化推進について再質問をさせていただきます。

以前より一般質問をしておりましたが、私は文化振興の中でも特に創造性や想像力の創出に力を入れていく創造都市を目指すことが重要であると考えております。創造都市というのは、日本に限らず様々な先進地事例を学んだり交流を行ったりするのが、前回ご紹介しました創造都市ネットワーク日本です。その中で、私も1年ほど前から、横浜市立大学が行っております創造都市スクールといったものを受講させていただいており、様々な講師の方より、芸術観点、IT分野、まちづくりと、創造都市について様々な視点で学ばさせていただきました。

以前、加盟してはどうかと質問をさせていただき、加盟も視野に入れてというような答弁をいただきました。実際に私もこうしたスクールを受講させていただく中で、各自治体の事例も知れますし、基本的には費用のかからないネットワーク組織となっております。

芸術家との連携などにもつながると考えますし、当市から新進気鋭の芸術家を生み出していける土壌を築いていくことも大切であり、連携はこれに伴った一つのきっかけになるのではと考えます。

近隣市や姉妹都市も加盟をしておりますので、ぜひともと思いますが、その後の展開について、どうなっているのか当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） 再質問にお答えします。

「創造都市ネットワーク日本」は、令和6年8月現在、120自治体が加盟しており、創造都市ネットワーク会議をはじめ、創造都市政策セミナーなどの事業を行っています。

加盟に向けて調査研究を進めていく中で、加入に係る費用負担はないものの、幹事団体の中で事務局を持ち回るなど、事務負担があることが分かりました。

一例として、文化が持つ創造性を包摂的な社会づくりに生かすという点で、都市と農村の特徴を意識しながら取組を推進するため設置された「創造農村部会」は、当市の姉妹都市で

ある丹波篠山市が務めており、このように加盟する自治体の中から、2年ごとに12から18団体が部会などの事務局を担うとのこと。

「犬山らしさ」を構築していくためにも、新たな情報収集は必要と認識していますが、事務局を担う場合の事務負担はどれくらいあるのかなどは把握できていない状況であるため、創造都市ネットワークへの加盟に関しては、引き続き調査研究を進めていきたいと考えています。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。確かに事務局負担はあるかもしれませんが、こうした役割を担うことで、先進都市との交流、やり取りも深まり、より深い研究もできる部分もあると思いますので、調査研究の上、体制を整えて臨んでいただけることに期待をしたいと思います。

こうした参画は先ほど挙げた遊具とも関連が出てくると考えております。遊具の中には創造性を養うような遊具やモニュメント要素のある遊具などもあり、創造都市との連携は、子どもたちが健やかに育つ環境を整備する上でも大切であると考えます。

近隣市町の可児市にも、想像力を養えるような大きな遊具があつたりして、こうした点からも学べる部分もあるのかなと思います。ぜひとも加盟を進めて、先進事例を取り入れ、これから造っていく公園などにも生かしていただければ幸いです。

続いて、要旨2、ウォークブルの推進都市について。

これは添付にもありますけども、Walkable, Eyelevel, Diversity, Openの頭文字を取ったWEDOの考え方に共鳴して、居心地がよく、歩きたくなるまちなかづくりを進めている地方公共団体が加盟をしており、当市も加盟をしております。

当市以外にも、近隣では一宮市、安城市、刈谷市、各務原市などが加盟をしており、隣の各務原市では、まちなかウォークブル推進事業を昨年から行い、自治体だけでなく民間も事業主体となって推進を図っています。

このウォークブル推進都市ですが、創造都市スクールの中でも、様々な自治体、世界的な事例を交えつつご講演いただき、創造都市において重要な要素であることから、この件名の中で質問させていただこうと思います。

過去の議事録を見たところ、まだ話題に上がっていないようですので、まずはこのウォークブル推進都市の加盟の経緯、目的などをお示してください。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

森川都市整備部長。

〔都市整備部長 森川君登壇〕

◎都市整備部長（森川圭二君） ご質問にお答えします。

加盟の経緯としましては、令和元年6月26日に、国の「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」において、議員がおっしゃった「WEDO」をキーワードとするまちなかづくりの方向性が示され、これを踏まえて、同年7月に「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の形成を目指して、国内外の先進事例などの情報共有や、政策づくりに向けて、国と地方が参加してウォークブルなまちなかづくりを共に推進するウォークブル推進都市の募集が行わ

れました。

この募集に対して本市では、これまでも犬山城下町地区において、「歩いて暮らせるまち 歩いて巡るまち」をビジョンに掲げ、道路の美装化や電線類の地中化、景観づくりに取り組んできたこともあり、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりの理念に賛同し、ウォーカブル推進都市に参画しています。

また、令和2年度には国の支援制度としてまちなかウォーカブル推進事業が創設され、本市では令和5年度に国の支援を受けられる滞在快適性等向上区域に、犬山城下町及び内田地区の木曾川河畔エリア一体を指定し、主に内田地区の木曾川河畔空間の整備に向けた取組を推進しております。

今後ともこの取組を通じて、新たなにぎわいや憩いの場の創出など、居心地のよい、歩きたくなるまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。このウォーカブル推進は、単に健康づくりや歴史や風土、環境を感じるだけでなく、イノベーションの創出を図ることも同時並行に考えていくことで、よりまちの魅力を発信できると考えますし、例えばストリートアートなどのまちなかアートも行ったすることで、気軽に作品を鑑賞できる環境の整備にも役立てられ、文化推進にも一役買うことができるのではないかと考えます。

それでは、再質問をさせていただきます。

創造都市の観点から見た際には、都市を人のための空間として考え、ストリート、公共的空間を都市空間の創造的環境の一つとして考えることが大切であると言われております。その前提として、歩行時の安全性やバリアのないまち、道であること、歩いて楽しい空間であることなどが大切です。

当市において、このウォーカブル推進都市に加盟したことで、今後も様々な都市政策を考えていくことと思いますが、先ほど上げたように、文化推進の観点からも利活用できるのではないかと考えますが、当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） 再質問にお答えします。

先ほど都市整備部長が答弁しましたように、犬山市では、犬山城下町地区で「歩いて暮らせるまち 歩いて巡るまち」をビジョンに掲げ、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」づくりの理念に賛同し、ウォーカブル推進都市に参画しています。

こうした取組は、誰もが安心して住み続けられる都市であること、また、犬山を訪れたくなるまちとなることを目指すものであり、そうした施策を推進していくことで、人々が行き交うこととなり、人と人との交流が盛んになります。

犬山が持つポテンシャルに様々な要素が加わり、新たな融合、すなわち、人が生み出していく文化の醸成や推進に大いに貢献すると認識しています。

城下町地区及び内田地区の木曾川河畔エリア一帯で推進する当市の事業では、河畔から犬

山鵜飼を鑑賞できること、また現在実施中の竹あかりのライトアップなどは、文化推進の観点からも意義あることと考えますので、今後、都市整備や観光まちづくりとも連携し、参画する他市町の先進事例など情報収集して、文化の推進につながるようにしていきたいと考えております。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。私も竹あかりについては多少かんでいる部分もあり、非常にうれしく思います。歩きながら様々な発見や、創造につながることができれば、新たな文化の醸成につながりこともできると思います。加盟したからには加盟している他市との連携なども取って、歩きたくなるまち、歩いていて楽しいまち、想像力を養える道へと推進していただければと思います。

続いて、要旨3、芸術家との連携についてです。

創造性の高いものを進行していくことが、これからの社会にとって重要視されております。AIの台頭により、過去のデータから生成される創作はできるようになってきましたが、ゼロから1を生み出す創造力は、AIにはない、我々人類が持つ最も重要な能力であり、これを強化していくことが、これからの社会にとって重要であると言われております。

このような創造性を養うには、伝統的なもの、歴史あるものに触れることに限らず、様々な突拍子のない前衛的な作品を体感したり、音楽や絵画、立体造形物等、様々な想像力豊かな芸術を堪能し、体感することでヒントを得たり、想像力の泉が湧いてきます。

創造都市に向けていくことが、今後の都市政策としても重要であり、芸術の発信の場が、より魅力あるものであることが、想像力を養う上で大切な要素だとも考えます。

また、感性を揺さぶるような芸術に触れる機会を設けることは、豊かさの創出のためにも重要であると考えます。

当市では、例年、市民展や芸能祭など、芸術発信の場をつくっていたりしますが、例年同じような手法を踏襲して行っているようにも感じます。

そこで、市内外の芸術家と連携し、文化振興、芸術発信の手法等について協議を行ったり、発信できる場の提供、情報などを集めたりして、発表や研さんができる場の提供方法、機会の創出などができないものかと考えます。

そこで、お伺いします。こうしたアーティストやクリエイター等とも連携して、開催方法なども考えてみるのも手法としてどうかと考えますが、こうした企画については開催までの企画立案などはどのように行われているのか、また、展示手法の工夫などを行ってはどうかと考えますが、当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

中村教育部長。

〔教育部長 中村君登壇〕

◎教育部長（中村達司君） ご質問にお答えします。

現在、犬山市では芸術発信の場として、犬山市民展や市民芸能祭を実施しています。これらは、犬山市の文化活動の担い手である犬山市文化協会と協力しながら実施をしています。

例えば、犬山市民展は、今年度70回を迎えた歴史の長い市民参加型の展覧会で、時代の流

れに沿うよう主管である犬山市文化協会と連携を取りながら企画し、年々内容をアップデートしているところです。

また、展示に関しては、市内の小中学生による児童生徒作品展の併催に伴い、多くの作品を展示できるよう、市民ロビーを展示スペースとして活用し、観覧者が「私の一番好きな作品」を選ぶ投票制度を導入することで、単に鑑賞するだけでなく展示に関心を高めてもらうよう工夫してまいりました。

一方、参加者の減少、また犬山市文化協会自体の担い手も減少傾向にありますので、こうした課題を踏まえ、当市の文化を振興してきた犬山市文化協会と連携をさらに取りながら、新たな文化創造に向けて、犬山市に関わりのある芸術家をはじめ、世界的なアートに触れる機会を設けるなど、新たな展開も必要ではないかと考えております。

したがって、市民の皆さんが培ってきた文化活動の伝統も大切にしつつ、質の高い芸術文化に触れる機会を提供していくことも重要と考えますので、市内をはじめ芸術に関わる方との新たな連携などの展開も視野に入れ、文化事業の企画を進めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。ぜひとも当市にゆかりのあるアーティストや、芸術に携わる方との連携を図り、新たな文化創出につなげていただければと思います。伝統守っていくことと、これからの新しい文化を創造していくことは別軸と捉え、新たな表現手法なども模索していただければと思います。

人は心が動かなければ足は動かないとも言われております。今まで足を向けていなかったような方の心を動かし、足が向かうような機会となり、新たな創造性を生み出していただけるようになることに期待したいと思っております。

続きまして、件名3、補助金についてです。

今回も多くの議案が上がってきており、予算案なども上程されておりますが、毎年非常に多くの補助金、助成金が設けられております。当市として抱える課題解決や永住促進、災害対策、子育て支援等、多くの補助金があり、必要な方に利用していただくために予算を計上していることと思っております。予算計上している以上、使っていただくことが前提であります。利用されていないものもあるのではないかと思います。今回、質問をさせていただきます。

それでは、要旨1、補助金の交付状況について。

以前、一般質問で狹隘道路の補助実績についてお伺いいたしました。そのときには補助実績が2件と少なく、対策として課題があるといったような答弁をいただきました。そこで、増額の検討といった返答をいただき、補助が使いやすいようにと、この補助金については刷新に向けて動いていることと思っております。

それでは、お伺いいたします。様々な視点からの補助金が設けられておりますが、その中には過去の踏襲などで残っていたり、現在ほとんど利用されていない、もしくは利用実績が当初見込みよりも少ない、予算に対して執行率の低い補助金などはないのか、お伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

数ある補助金の中には、議員がお尋ねのような、執行がないものや、予算に対し執行率が低いものも見受けられます。

例えば、原子爆弾被爆者検診旅費助成金や、若年性がん患者在宅ターミナルケア支援補助金などは執行がなかったり、執行率が低かったりしますが、国や市の政策として、対象者や利用者が少ないにもかかわらず、制度として必要性の高い補助金という観点で設置をしています。

額が確定している令和5年度決算で全体の状況を回答させていただきますと、補助金の交付状況に係る調書として市のホームページ上で公表している補助金の件数は、全体で168件であり、このうち執行がなかったものは24件、また執行率が30%を切っているものが7件となりました。この2つを合わせた割合は、全体の約18.5%となります。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。私もホームページ上に公開されておりましたので、一覧にて拝見をさせていただきましたが、結構あるように見受けられました。

それでは、再質問をさせていただきます。

せっかく設けられている補助金である以上、利用実績の少ない補助金については、告知案内などを強化して使っていただくよう、より強くあっせんする必要もあるのではないかと思います。当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） 再質問にお答えします。

補助金の種類により、対象がそれぞれ異なってきますので、執行率の低い理由は様々だと推察されますが、補助金を必要とされる方が必要なときに的確に情報を得ることができるように周知することが必要であると考えています。

このことから、補助制度については市民の皆様が簡単に検索できるよう、市のホームページ上の市政情報として、所管課ごとにまとめて補助金要綱を掲載しています。

また、本庁舎1階にある情報コーナーでも資料を設置し、制度についての周知を行っています。

そのほか、所管課においても、適宜、個々の補助制度について、ホームページやSNS、広報犬山などによる周知も実施しているところです。

今後も、補助金の性質に応じて、適切な方法で対象者への周知に努めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。必要だから設けられている補助金だとも思いますし、利用できることを知らないままであることは、該当されている方の機会損失だと思いますので、これらの補助金についてもっと活用していただけるように、あっせんにも力を入れていただければ幸いです。

それでは、続きまして、要旨 2、補助金の見直しについてです。

こうした補助金は実際には使われていないので、来季に持ち越しなどを行っていることとは思いますが、なかなか財政厳しい中、こうした使用頻度の低い補助の予算を組むことで、他を圧迫していたりする部分も少なからずあるのではないかと思います。

そこで、お伺いいたします。数年間調査して見比べてみて、利用実績の低いものについては廃止や刷新、また他の補助金の創設につなげていくことにもつながるのではないかと思います。当局の見解をお伺いいたします。

◎議長（柴田浩行君） 当局の答弁を求めます。

井出経営部長。

〔経営部長 井出君登壇〕

◎経営部長（井出修平君） ご質問にお答えします。

補助金については、地方自治法において、公益上必要がある場合に補助を行うことができるとされていることから、その補助制度が公益上必要なものであるかを、定期的に検証する必要があると考えています。

また、予算に関する補助金全体の考え方としては、市民の皆さんにとって有効に活用されているか、利用しやすいのかも含め、実態を把握し、適宜、改善や合理化を進めていくべきであると考えています。

先の質問でお答えしました、執行がない、または執行率が低い補助金については、国や県の支援を受けて実施する補助金や、そもそも対象が限られるような補助金、創設時とはニーズが異なっている補助金など様々な状況が見受けられます。

そのため、個々の補助金の改廃は、単に執行率の高い低いだけで判断することはできません。

現在も予算査定の間では、過去の執行率等から、予算計上額の妥当性や、補助金自体の必要性についての精査を行っていますが、財政状況が厳しい中、今後も引き続き、執行率等も確認しながら進めてまいります。

◎議長（柴田浩行君） 増田議員。

◎3番（増田修治君） ありがとうございます。県や国が支援している補助金等もあるので、一概に廃止などとは言えないのはそうだと思いますが、市としてこうした補助金を設けている以上、ほとんど利用されていない認知度の低い補助金については、いま一度、利用促進とか告知に力を入れていただきたいです。実際に使用頻度が少なかったり、補助として疑問符を抱くようなものについては、見直し、更新、刷新と踏み込んでいただき、県や国にも進言していくことも大切であると思います。

補助金の改廃等を行うことは、新たなニーズの補助金を生み出せる余地が生まれる部分でもありますので、こうした部分にも踏み込んでいただけることを期待したいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

◎議長（柴田浩行君） 3番 増田修治議員の質問は終わりました。

お諮りいたします。本日の一般質問はこれをもって打ち切り、明日 5 日午前10時から本会議を再開いたしまして、一般質問を行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

◎議長（柴田浩行君） 異議なしと認め、さよう決しました。

◎議長（柴田浩行君） 本日は、これをもって散会いたします。

午後 3 時 25 分 散会